

令和 5 年度

公民館実態調査

令和 6 年 3 月

岡山県公民館連合会

はじめに

現在、我が国では、未曾有の社会状況や社会の構造的変化の中、地域社会には多岐にわたる課題が現れており、公民館を中心とする社会教育施設においては、時代の変化によって生じた新たな課題に対応していくことが求められています。

令和4年8月の第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理「全ての人のウェルビーイングを実現する、共に学び支えあう生涯学習・社会教育に向けて」では、多様性を持ちながら調和のある社会を目指すことが求められる現在の我が国において、学びを通じて「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環を生む、公民館活動が改めて重要視されています。また、公民館については、これまでの地域の学習拠点としての機能や役割に加え、子供の居場所としての活用、関連施設・各種団体や民間企業等との連携等が求められています。公民館は、住民自身が主体的に学ぶ意思を持ち、教え学び合う当事者となり、その学習成果が地域における活動に還元されるような循環を生む「地域コミュニティの基盤」として、存在がより一層期待されています。

そこで、県公民館連合会では、今後、県内における公民館活動のさらなる発展を目指し、県内公民館の実態を把握するとともに、より効果的に公民館活動を推進する基礎資料とするため、このたび公民館実態調査を実施しました。この調査結果が、より効果的な公民館活動を推進するとともに、住民参画による地域づくりや地域活性化の一助になることを願っています。

最後になりましたが、御多用中にもかかわらず調査の実施にあたり御協力をいただきました県内各公民館関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

令和6年3月

岡山県公民館連合会

会長 熊谷 慎之輔

目次

I 調査概要	1
II 公民館等の現状について	
1 公民館の現状	2
2 公民館職員の現状	4
3 地域住民の参加・参画状況	6
4 学習要求の把握状況	8
5 事業の自己点検及び評価の実施状況	10
III 公民館事業等の現状について	
1 現代的課題と地域課題に関する講座	12
2 学校園等と事業連携の現状	17
3 障害をもった方を対象とした事業	19
IV 岡山県公民館連合会研修会への参加状況について	20
V 自由記述	21
VI まとめと今後の方向性	25
調査用紙	27
県内公民館（本館）一覧	30

I 調査概要

(1) 調査目的

県内の全公民館（本館）・公民館類似施設への調査を行い、公民館活動の実態を把握し、今後の公民館振興をより効果的に推進するための基礎資料とする。

※約5年毎に実施

平成17年3月 平成16年度「社会の変化に対応した公民館のあり方について」[一次] 調査報告書
平成21年6月 平成20年度「社会の変化に対応した公民館のあり方について」[二次] 調査のまとめ
平成26年9月 平成25年度「公民館実態調査」
令和元年10月 平成30年度「公民館実態調査」

(2) 調査対象

岡山県内すべての公民館 284 館

（本館 283 館、公民館類似施設 1 館のうち、職員配置（非常駐も含む）のある 271 館）

※本館の数については、岡山県教育庁生涯学習課「令和4年度生涯学習・社会教育行政便覧」公民館施設数・令和3年5月1日現在

(3) 調査期間

令和5年7月13日～令和5年9月28日

区分	市	町	村	計
本館	231	51	1	283

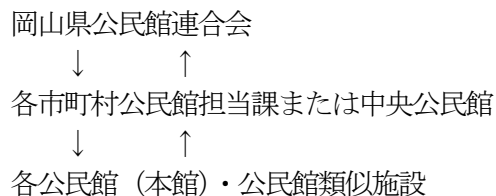
(4) 調査内容

- 公民館の現状（施設・職員・運営について）
- 主催事業について（住民参画の状況、他機関との連携を含む）
- 岡山県公民館連合会研修会への参加状況
- 公民館の在り方についての自由記述

※調査用紙は、27 ページ～29 ページに掲載

(5) 調査方法

各市町村公民館担当課または、中央公民館を通じて、各公民館及び公民館類似施設に紙面によるアンケート調査を実施



(6) 回収結果

271 館中 271 館の回答 回収率 100%

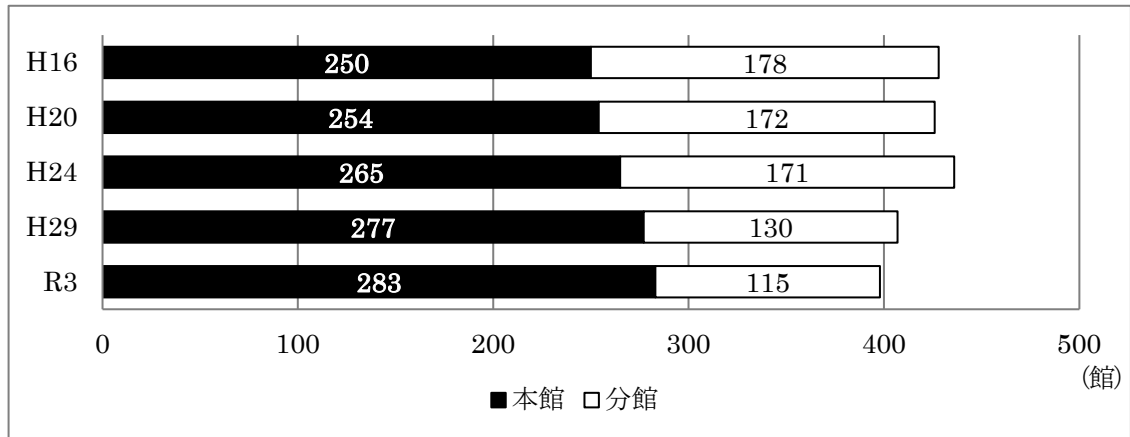
(7) 特記事項

- ① グラフについては、岡山県教育庁生涯学習課実施または、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターが実施した別の調査等を元に、作成しているものがあり、その場合は根拠とした調査名をグラフに記載している。
- ② グラフの n 値は公民館からの回答数を表している。岡山県教育庁生涯学習課実施の調査を元に作成しているものは n 値を示していない。
- ③ グラフ内に記載している年度は調査の対象年度を表しており、実施年度とは必ずしも一致しない。
- ④ 調査内のパーセンテージは原則、小数第2位を四捨五入し小数第1位で表しているが、都合上整数表記としたものがあり、その場合は、グラフに明記している。また、その合計が 100%にならない場合がある。

II 公民館等の現状について

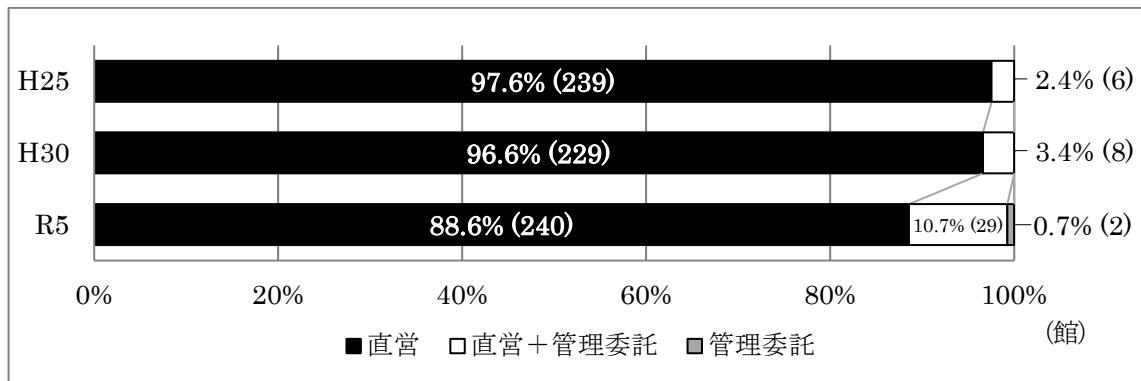
1 公民館の現状

図1 公民館数の推移



◆岡山県教育庁生涯学習課「平成17・21・25・30・令和4年度生涯学習・社会教育行政便覧」のデータを元に作成

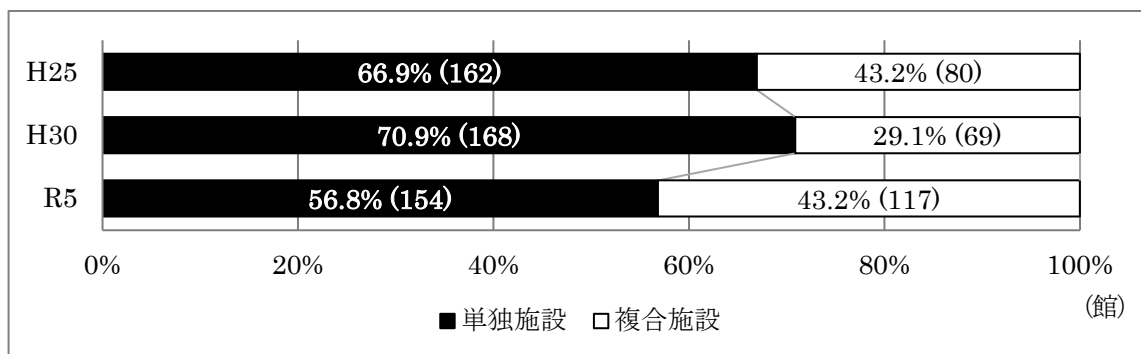
図2 公民館の管理運営状況 (H25…n=245, H30…n=237, R5…n=271)



◆平成30年については、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターのデータを元に作成

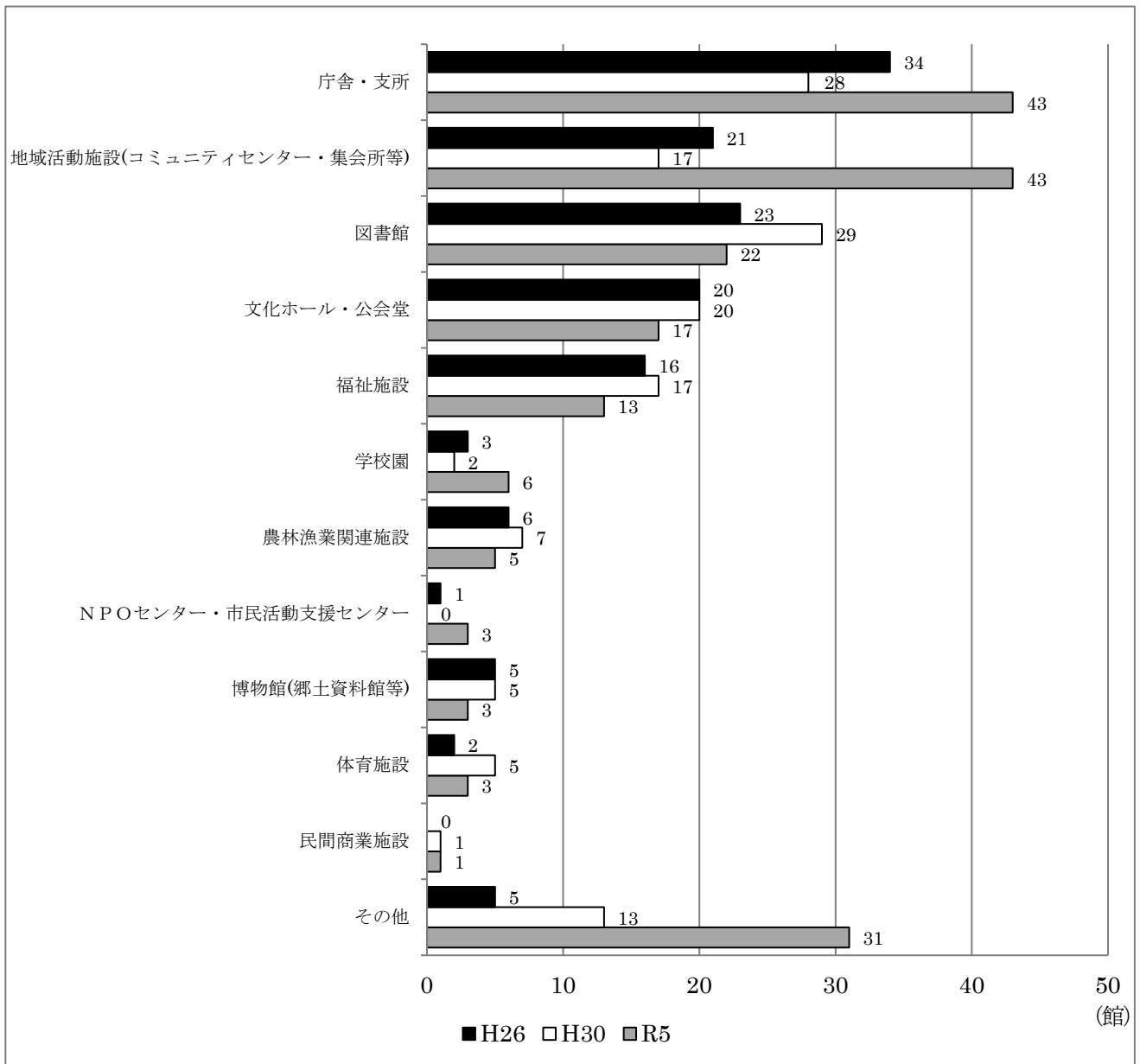
※「管理委託」の項目がH25・H30で0.0%となっているのは、選択肢がなかったため

図3 公民館の施設概況 (H25…n=242, H30…n=237, R5…n=271)



◆平成30年については、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターのデータを元に作成

図4 公民館に併設されている施設・機関（複数回答 H26…n=80, H30…n=69, R5…n=117）



その他…○児童生徒支援教室 ○教育研究研修センター ○市営駐車場 ○行政窓口 ○郵便局 ○保健センター 等

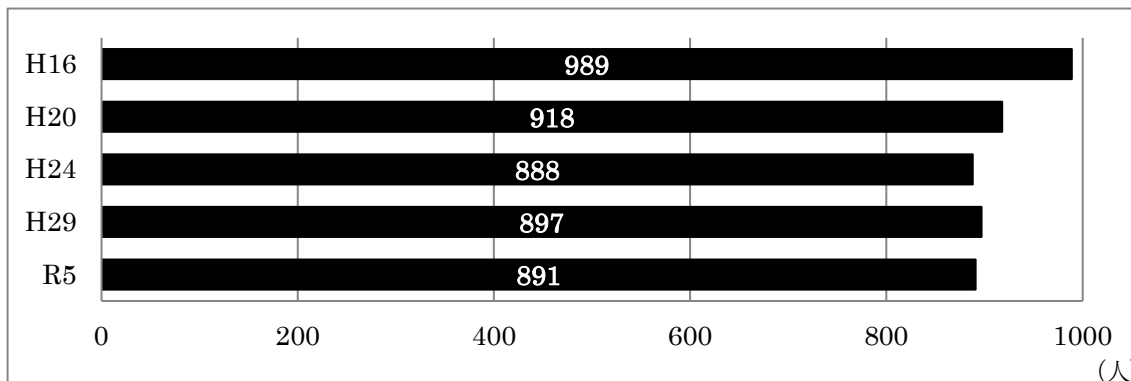
◆平成30年については、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターのデータを元に作成

※「民間商業施設」の項目がH26で0.0%となっているのは、選択肢がなかったため

※「H26」となっているのは、平成25年度「公民館実態調査」の追加調査をH26に実施したため

2 公民館職員の現状

図5 公民館職員数の推移



◆平成16年～平成29年までについては、岡山県教育庁生涯学習課のデータを元に作成

◆令和5年については、岡山県公民館連合会が調査

図6 公民館職員の勤務状況

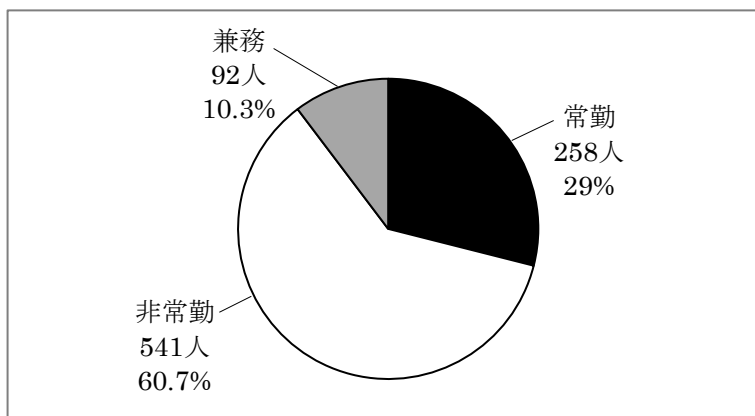
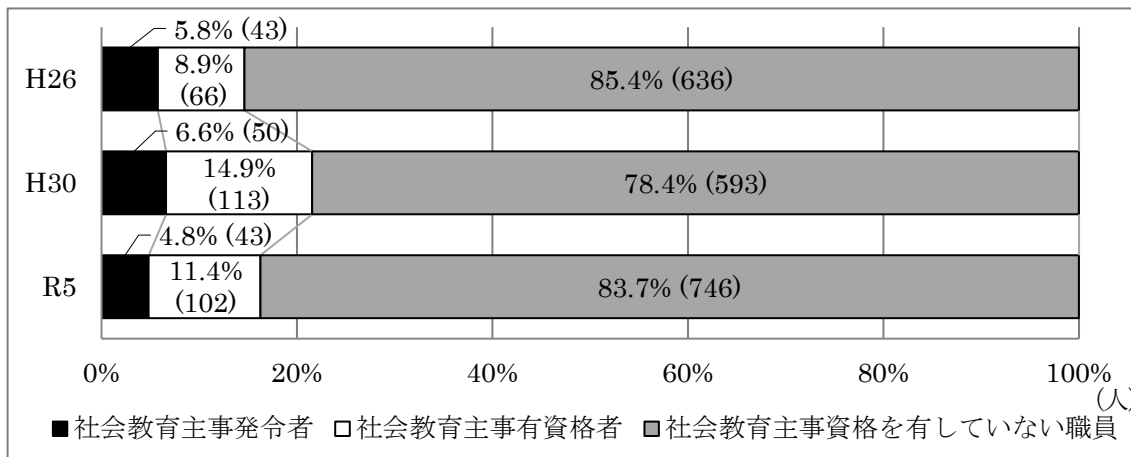


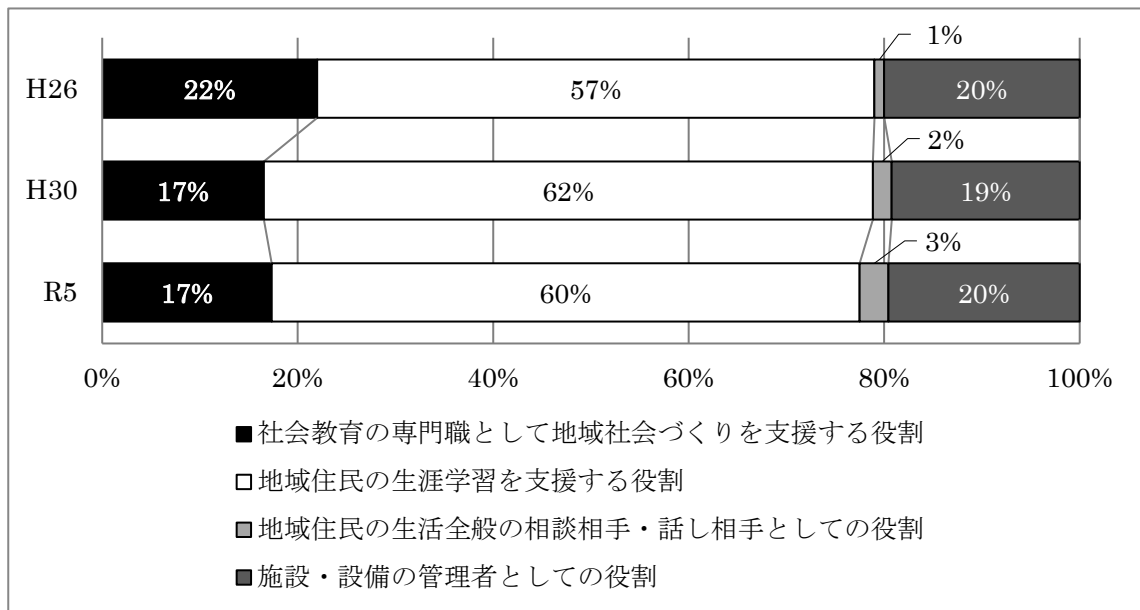
図7 ①公民館職員における社会教育主事資格の有無<人数>

(H26・・・n=242, H30・・・n=260, R5・・・n=271)



※「H26」となっているのは、平成25年度「公民館実態調査」の追加調査をH26に実施したため

図8 公民館職員の役割 (H26…n=242, H30…n=260, R5…n=271)



※「H26」となっているのは、平成25年度「公民館実態調査」の追加調査をH26に実施したため

3 地域住民の参加・参画状況 ※図9～図11は、令和4年度の状況を調査

図9 公民館運営審議会または代替機関の設置状況 (H25…n=245, H29…n=260, R4…n=271)

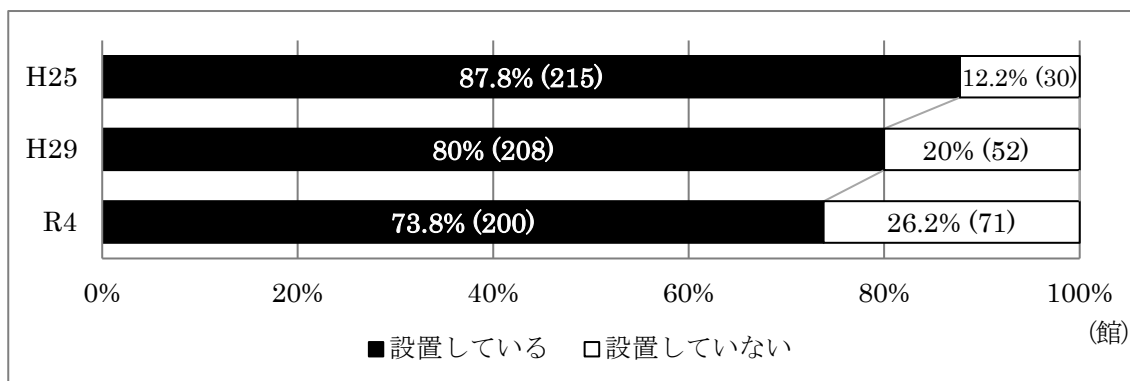


図10 公民館運営審議会または代替機関の会議開催回数

(H25…n=215, H29…n=208, R4…n=200)

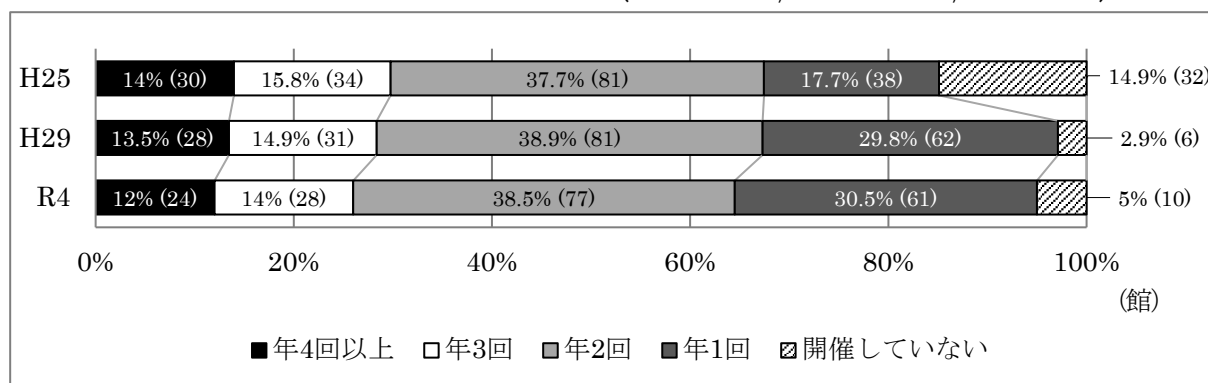
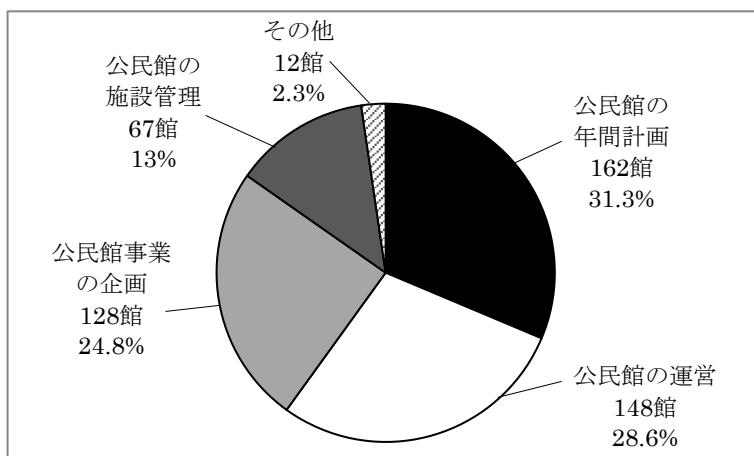
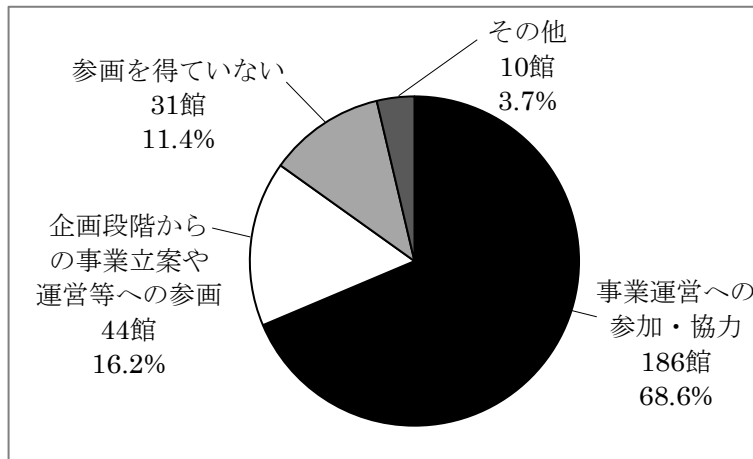


図11 公民館運営審議会または代替機関の会議内容 (複数回答 n=200)



その他…○運営委員会会計及び監査報告 ○公民館の主催事業の評価 ○地域児童育成懇談会
○まちづくりや社会福祉事業の企画運営について 等

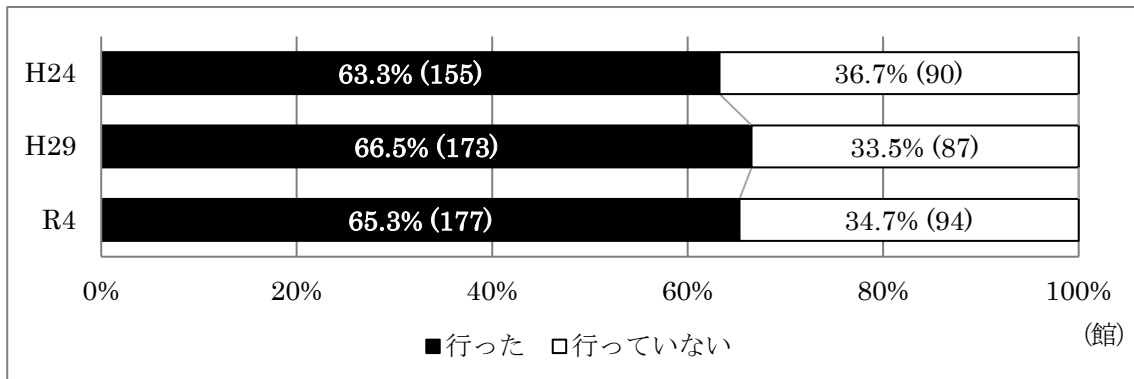
図12 事業運営における地域住民の参加・参画状況 (n=271)



その他…○一部講座へボランティアスタッフとして参加 ○芸術文化活動に関する団体の運営などに携わっている
○講師として参加 等

4 学習要求の把握状況

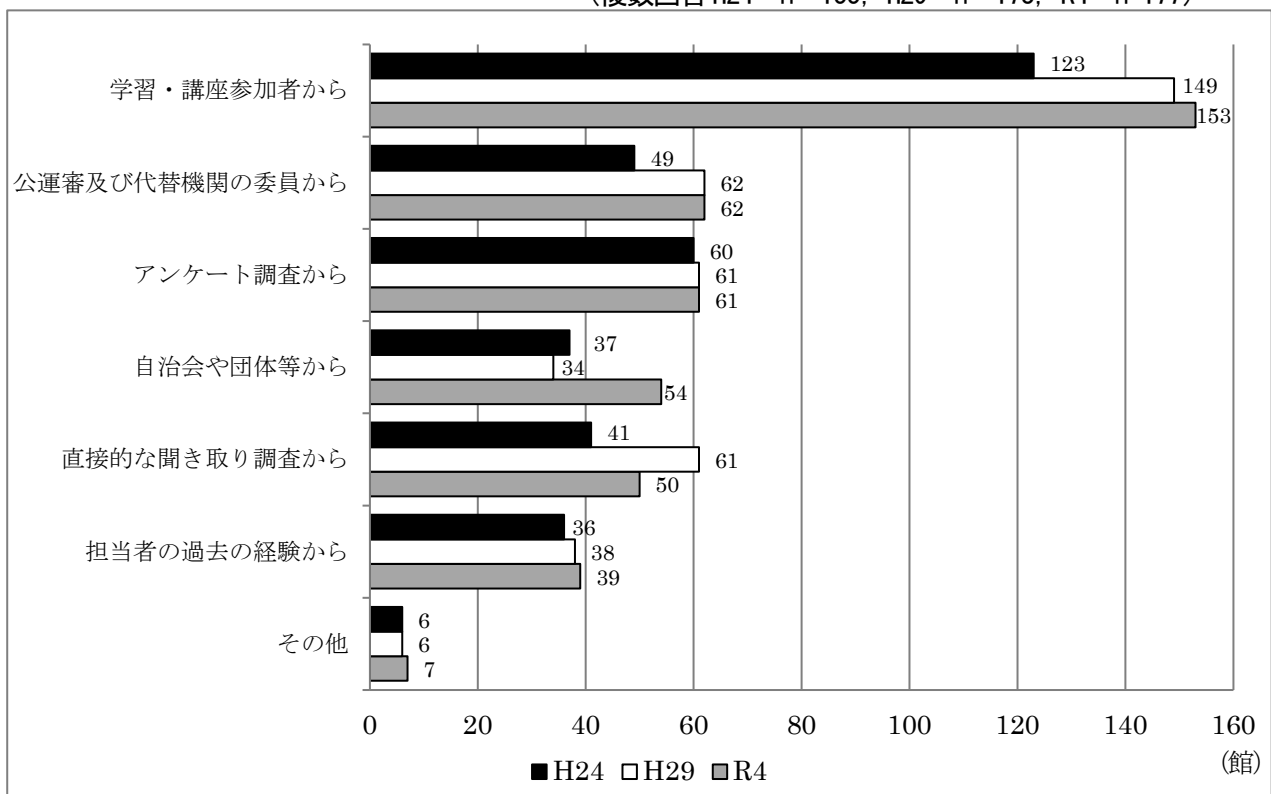
図 1 3 地域住民の学習要求（学習ニーズ）把握の実施状況（H24…n=245, H29…n=260, R4…n=271）



※過去5年間に学習要求の把握を行ったかどうか調査

図 1 4 地域住民の学習要求（学習ニーズ）把握方法

（複数回答 H24…n=155, H29…n=173, R4…n=177）

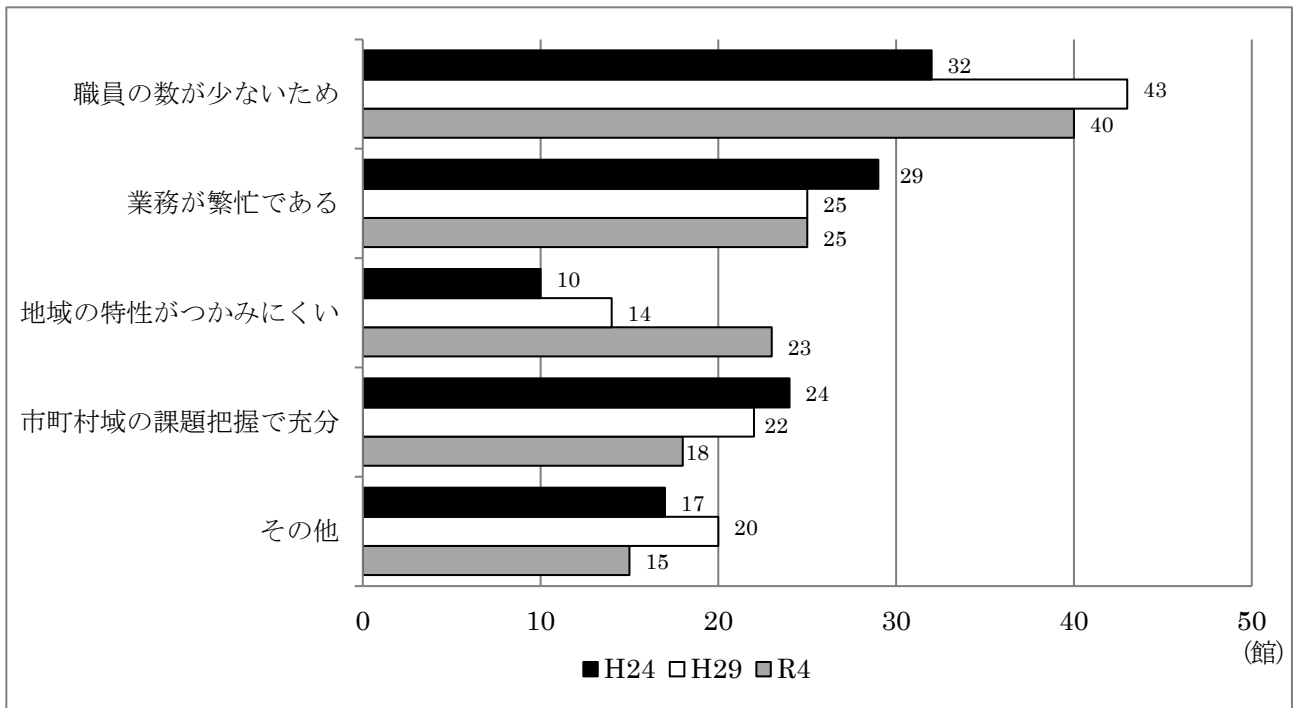


その他…○学校園 ○地域おこし協力隊員 ○町内全世帯配布の公民館だより ○市民芸術祭実行委員会 等

※過去5年間にどんな方法で学習要求の把握を行ったかどうか調査

図15 学習要求（学習ニーズ）把握を行わなかった理由

(複数回答 H24…n=90, H29…n=87, R4…n=94)



その他…○コロナ禍のため ○必要性を認識していない ○調査方法がわからない
 ○事業の感想や、利用者との普段の会話を生かしている ○予算や人員が限られているため 等

5 事業の自己点検及び評価の実施状況 ※図16～図18は、令和4年度の状況を調査

図16 事業の自己点検及び評価の実施状況 (H24…n=245, H29…n=260, R4…n=271)

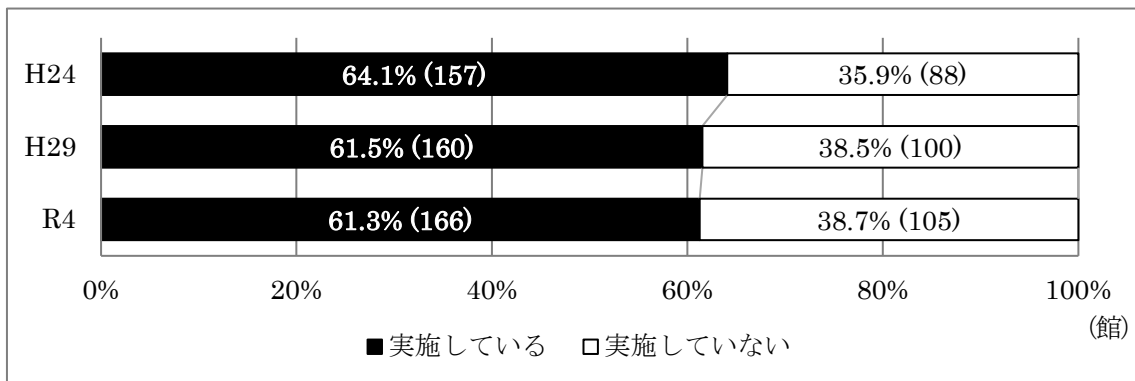
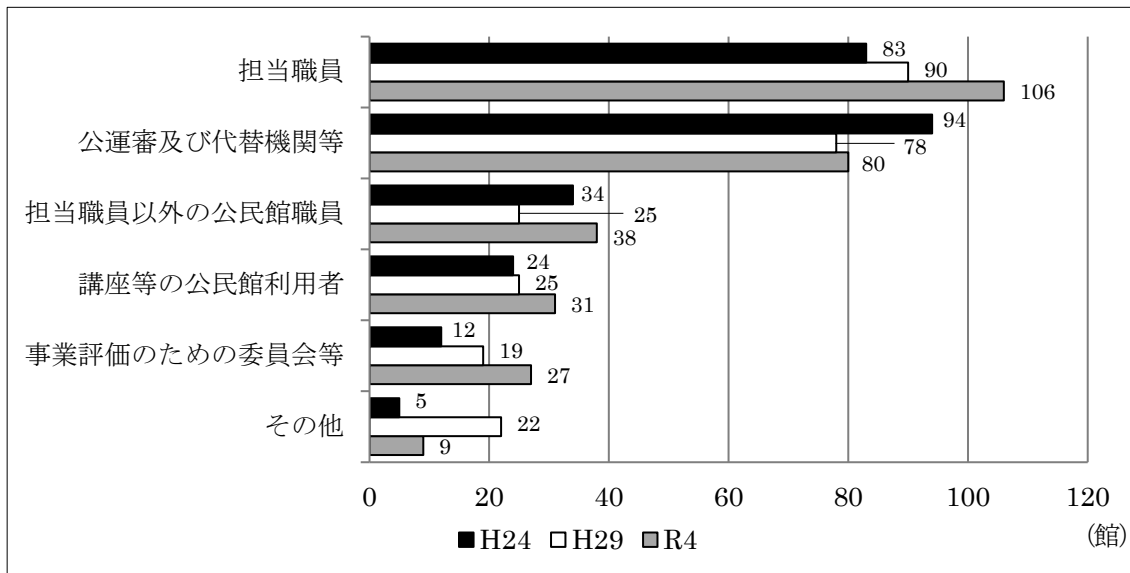
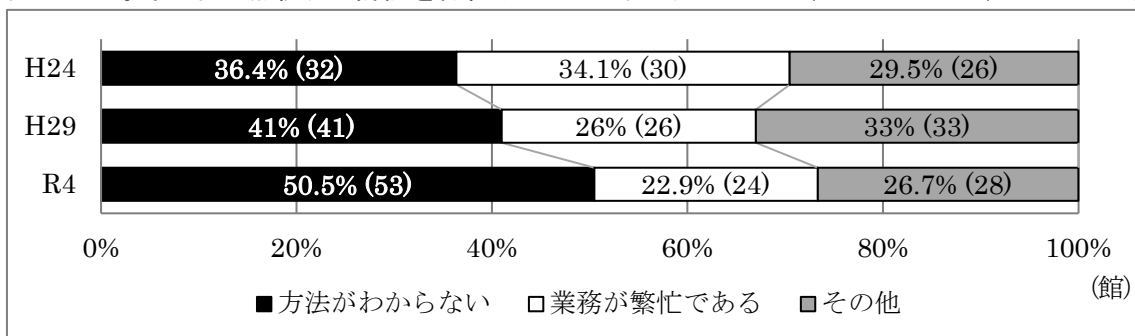


図17 事業の自己点検及び評価者 (複数回答 H24…n=157, H29…n=160, R4…n=166)



その他…○教育委員会 ○指導者(コーディネーター) 等

図18 事業の自己点検及び評価を行わなかった理由 (H24…n=88, H29…n=100, R4…n=105)



その他…○必要性を認識していない ○アンケートで代替 ○事業を行っていないため
○事業ごとの反省を話し合っている ○重要性や利点に対する理解が不十分のため 他

<調査結果のポイント>

1 公民館の現状について

- 県内の公民館数は、減少しているが、本館数は増加傾向にあり（図1）、県内ほとんどの公民館は、直営で管理・運営を行っている（図2）。理由の追跡調査は行っていないが、老朽化等により、新たに複合施設の中に設置された公民館も存在する。
- 複合施設の割合はH30から増加傾向にあり（図3）、公民館に併設されている施設・機関では、「庁舎・支所」「地域活動施設（コミュニティセンター・集会所等）」との回答が増加している（図4）。このことから公民館の中に庁舎・支所の機能が加えられたり、公民館が地域活動施設（コミュニティセンター・集会所等）との複合施設になったりしたと考えることができる。

2 公民館職員の現状について

- 公民館職員数は、ほぼ横ばいであるが（図5）、社会教育主事資格者は減少している（図7）。しかし、公民館の役割として認識している役割はH30からほとんど変わっていない（図8）。

3 地域住民の参加・参画状況について

- 公民館運営審議会またはその代替機関を設置している割合は、H25から年々減少している（図9）。会議は、95%の館で開催することができている（図10）。

4 学習要求の把握状況について

- 地域住民の学習要求（ニーズ調査）は、半数以上が実施されており（図13）、そのほとんどが、「学習・講座参加者」に直接行ったものである（図14）。
- 地域住民の学習要求（ニーズ調査）を行わなかった理由として、「職員の数が少ないため」との回答が多いことから、マンパワーが不足していると読み取ることができる（図15）。

5 事業の自己点検及び評価の実施状況について

- 事業の自己点検及び評価を行わなかった理由として、「方法がわからない」と回答した割合が、H24から年々増加している（図18）。

Ⅲ 公民館事業等の現状について

1 現代的課題と地域課題に関する講座 ※図19～図22、図24は、令和4年度の状況を調査

図19 現代的課題や地域課題をテーマとした主催講座実施状況<公民館数>
(H24…n=245, H29…n=260, R4…n=271)

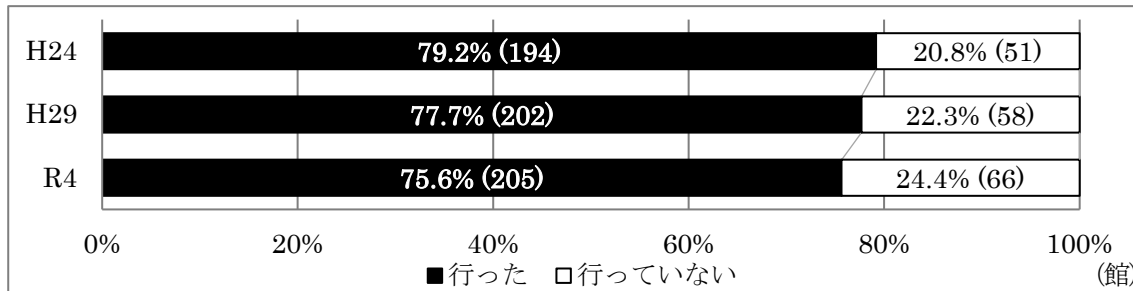
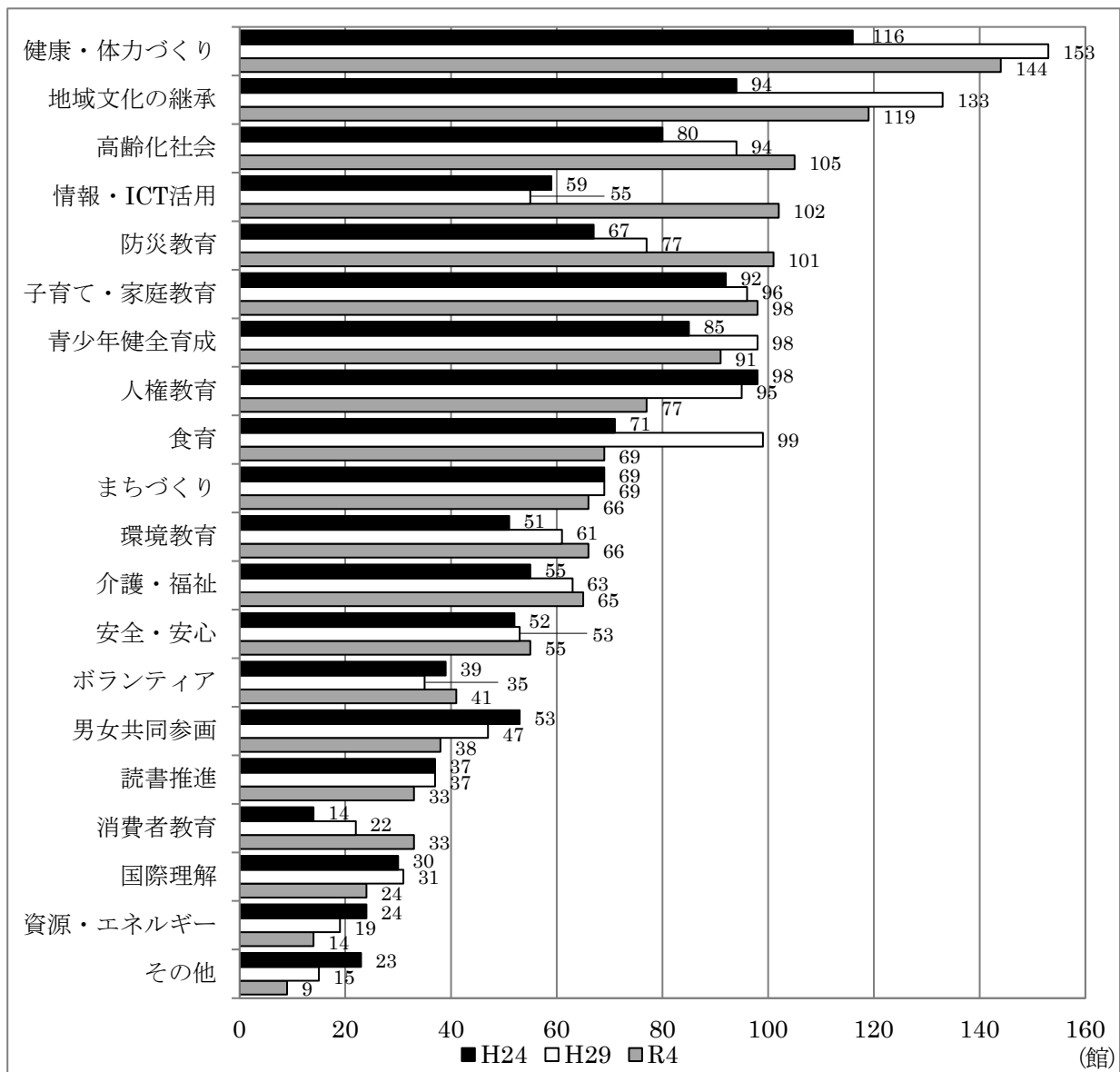
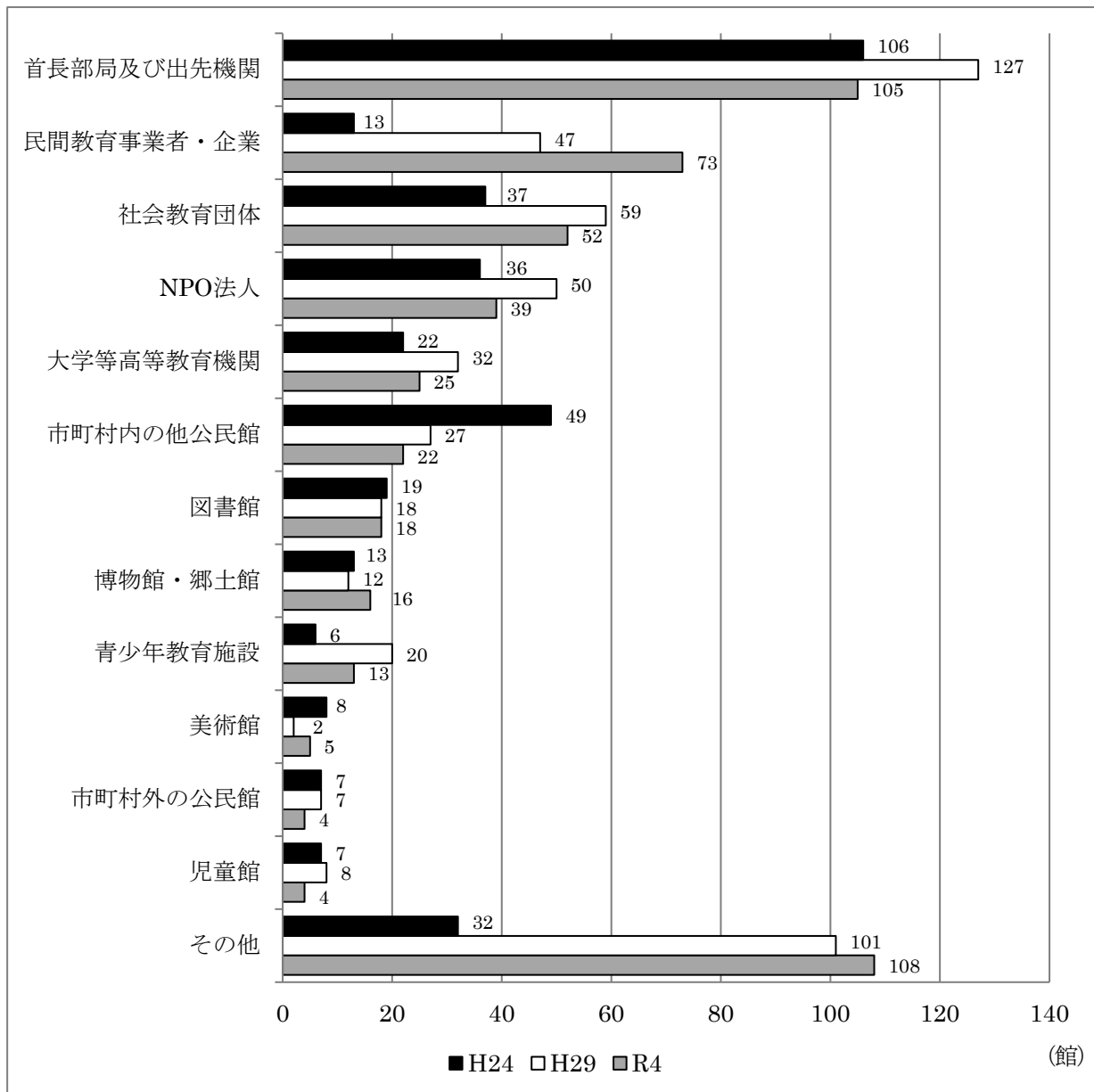


図20 主催講座として取り上げた現代的課題や地域課題
(複数回答 H24…n=194, H29…n=202, R4…n=205)



その他…○現代アート ○SDGs ○学習習慣の定着 ○工作教室 ○習字教室 ○伝統行事 ○農業 ○居場所づくり

図2-1 事業の連携先（複数回答 H24…n=181, H29…n=173, R4…n=182）

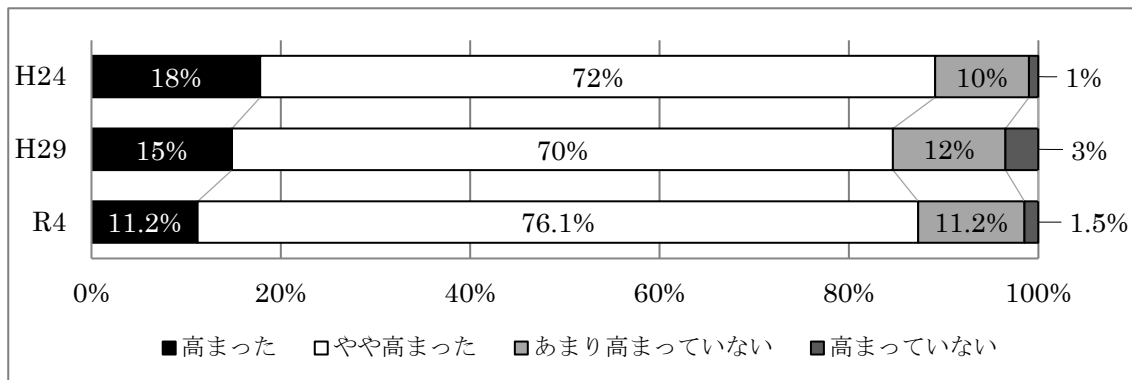


その他…※学校園を挙げている回答の他に

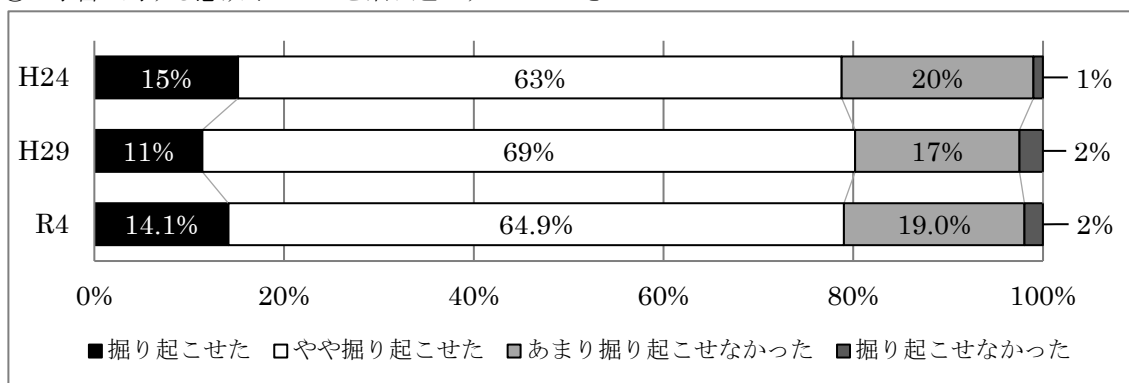
- 自治会 ○町内会 ○社会福祉法人 ○栄養改善委員会 ○まちづくり団体 ○地域包括支援センター ○警察
- 消防団 ○病院 ○婦人会 ○老人クラブ ○地域の住民団体 ○住民有志・ボランティア 等

図 2 2 主催講座の実施を通しての地域住民の変化 (H24…n=194, H29…n=202, R4…n=205)

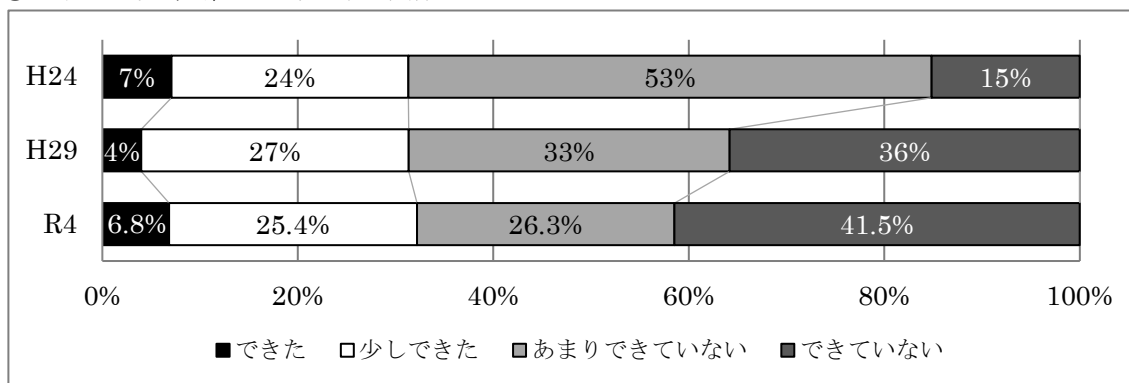
① 様々な現代的課題や地域課題に対する興味関心が高まったか



② 学習に対する意欲やニーズを掘り起こすことができたか



③ 課題を考え、解決しようとする団体・グループができたか



④ 地域にある団体・グループの活動が活性化されたか

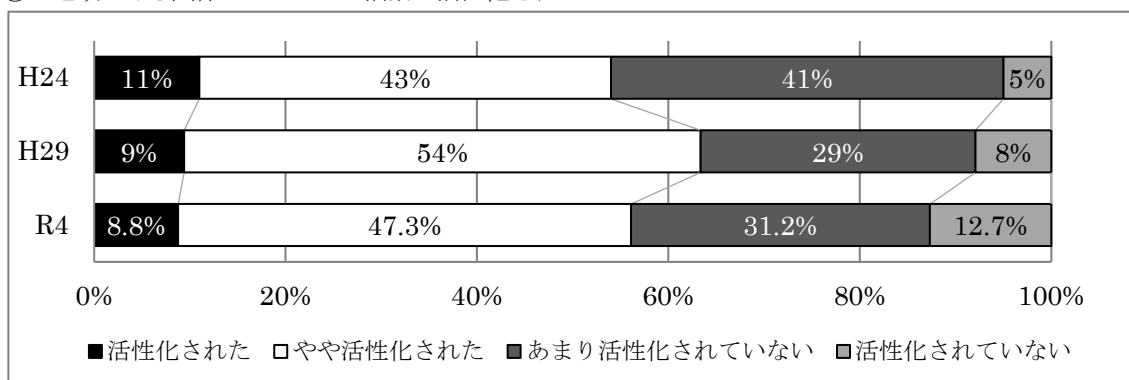
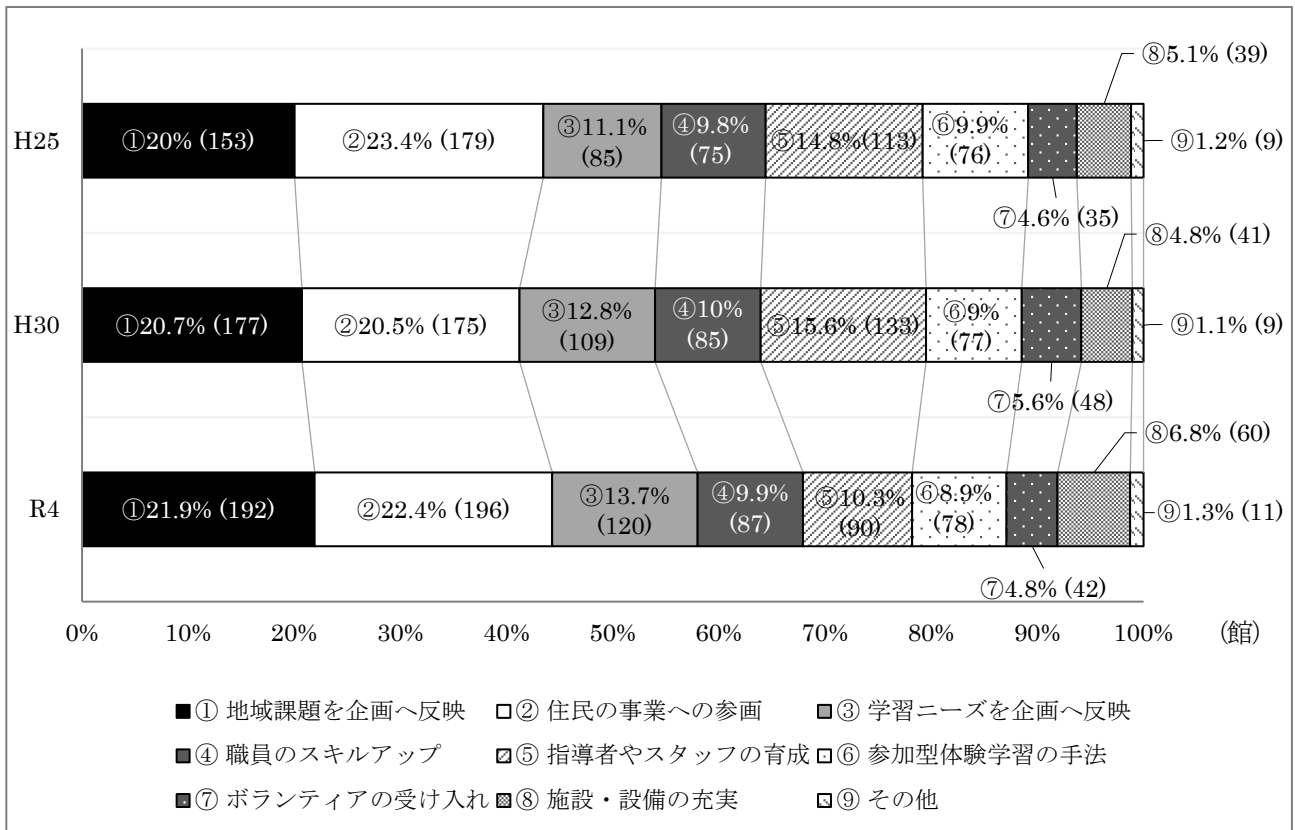


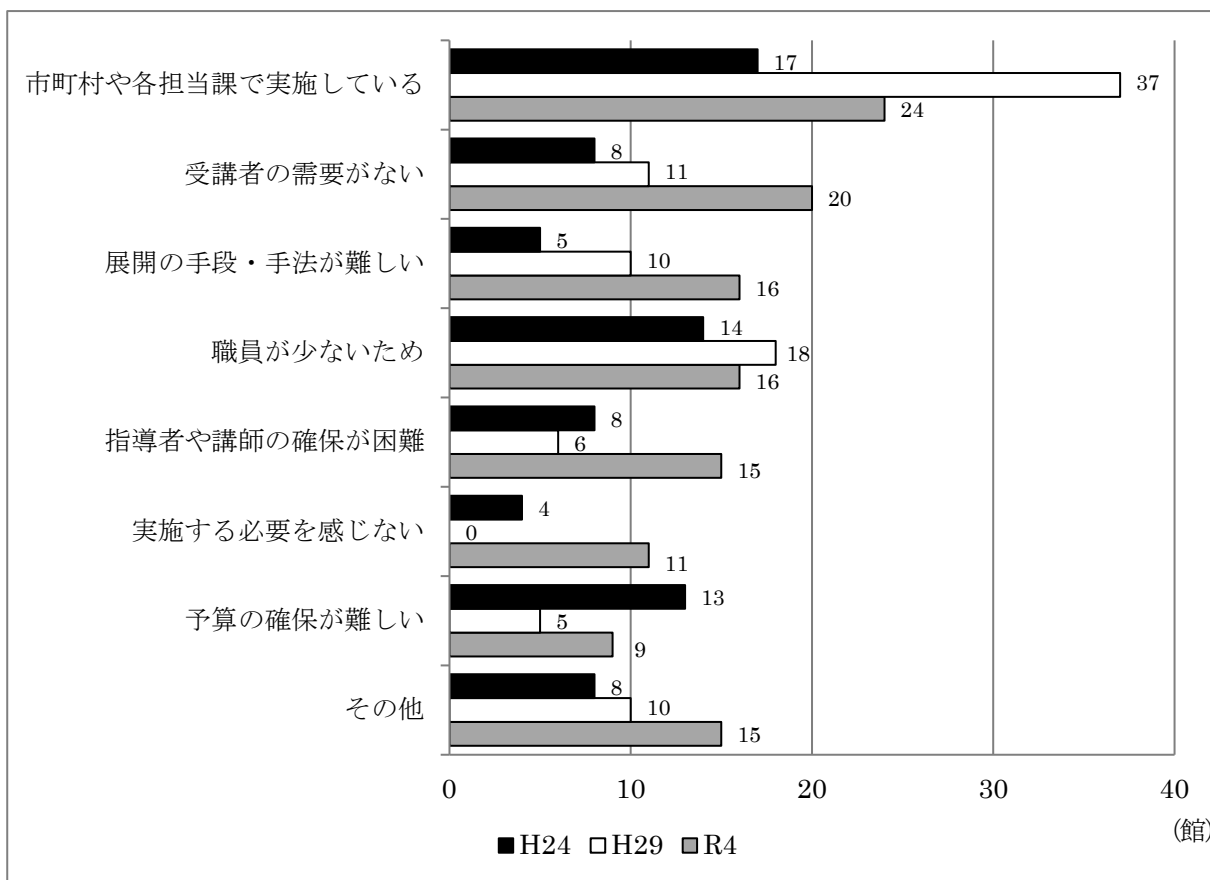
図 2 3 現代的課題や地域課題に関する主催講座の内容を充実させるために重要なこと
 (複数回答 H25…n=240, H30…n=260, R4…n=271)



その他…○上位計画を講座企画に反映 ○職員の適正配置 ○公民館の組織改編 ○予算の確保 ○他公民館との情報交換 等

図2-4 現代的課題や地域課題に関する主催講座を実施しなかった理由

(複数回答 H24…n=50, H29…n=58, R4…n=66)



その他…○まちづくり協議会等の団体が実施している ○新型コロナウイルス感染症の感染防止のため
○常勤の職員が少ないため 等

※「実施する必要を感じない」の項目がH29で0.0%となっているのは、回答数が0であったため

2 学校園等と事業連携の現状 ※図25～図27は、令和4年度の状況を調査

図25 学校園と連携した事業・活動の実施状況 (H24…n=245, H29…n=260, R4…n=271)

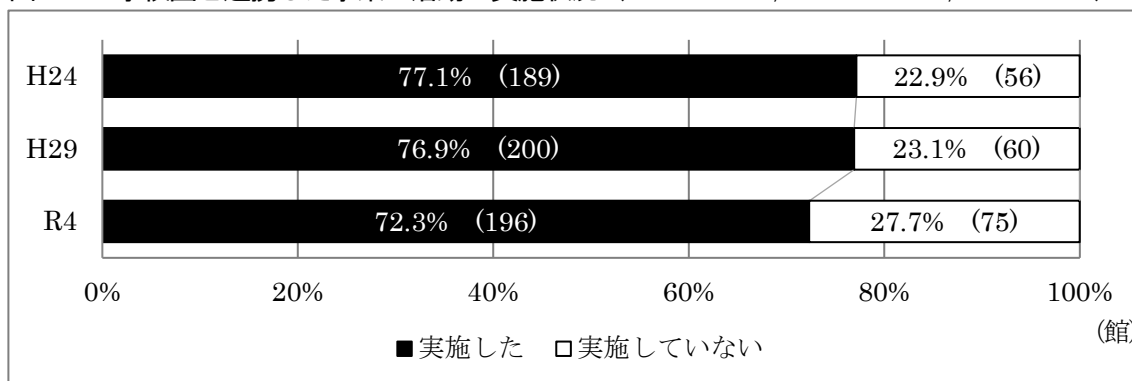
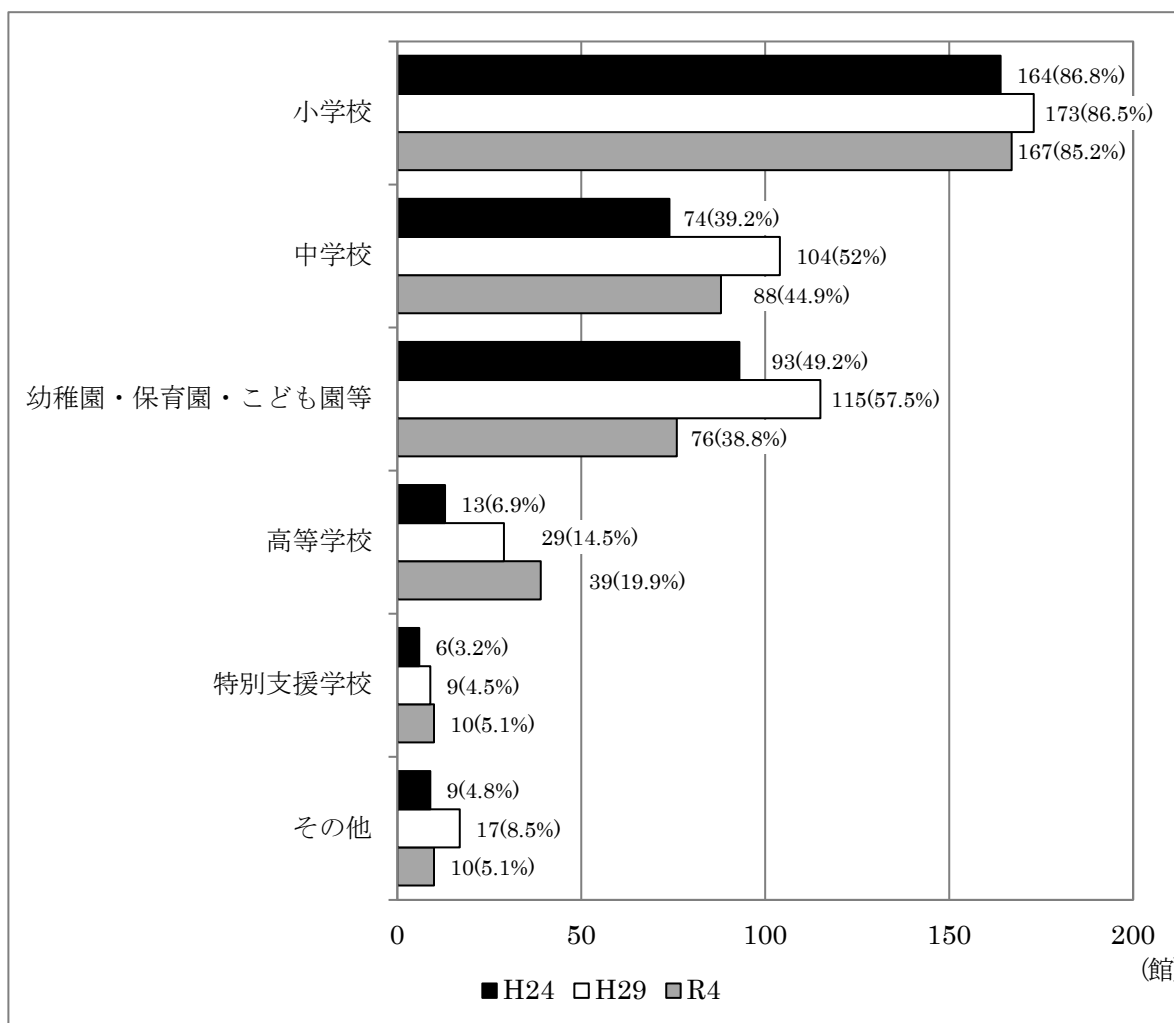
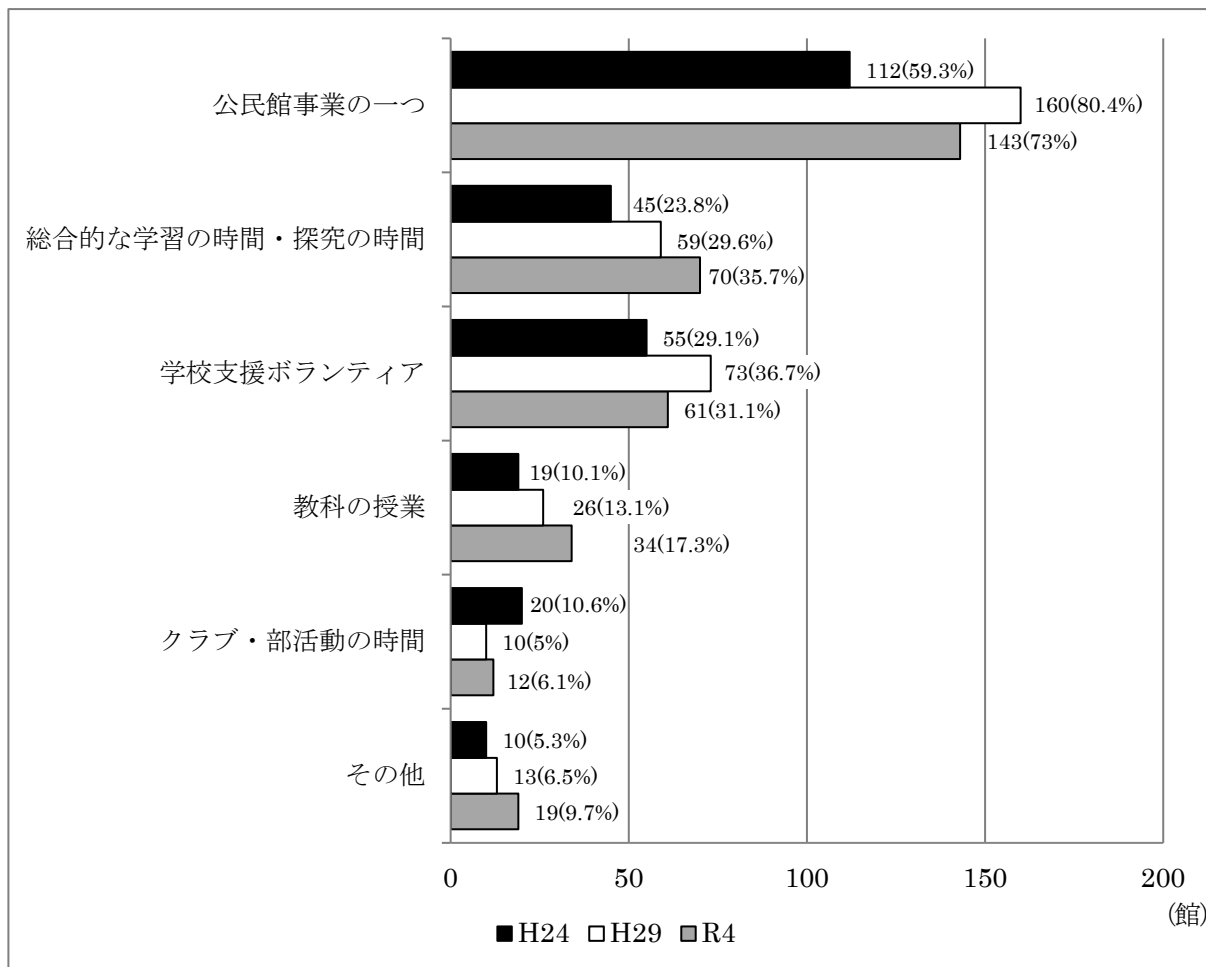


図26 事業の連携先の学校園種 (複数回答 H24…n=189, H29…n=200, R4…n=196)



その他…○大学 ○高等専門学校 ○専門学校

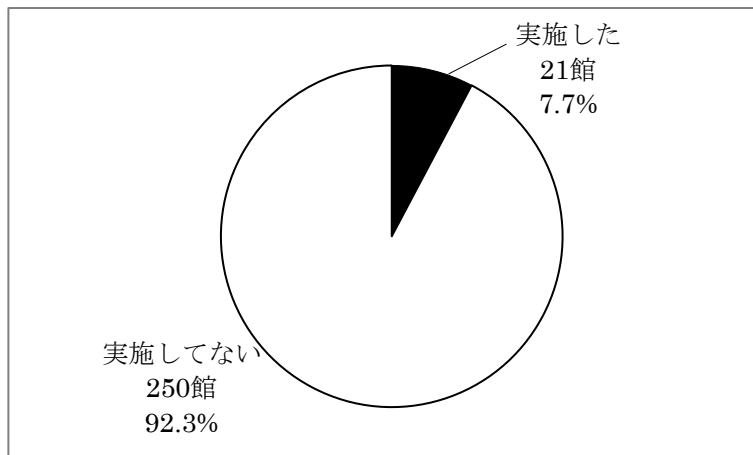
図27 学校園と連携した事業・活動の位置付け（複数回答 H24…n=189, H29…n=200, R4…n=196）



その他…○地域の交流事業 ○放課後児童クラブの活動 ○公民館に事務局を置く団体の事業 等

3 障害をもった方を対象とした事業 ※図28は、令和4年度の状況を調査

図28 障害をもった方を対象とした事業の実施状況 (n=271)



<調査結果のポイント>

1 現代的課題と地域課題に関する講座について

○ 現代的課題や地域課題をテーマとした主催事業を実施した公民館の割合がH24から年々減少している(図19)。主催講座として取り上げた現代的課題や地域課題として、「高齢化社会」「情報・ICT活用」「防災教育」等で増加し(図20)、連携先は、「民間教育事業者・企業」が増加している(図21)。また、現代的課題や地域課題に関する主催講座の内容を充実させるために、「地域課題を企画へ反映」「住民の事業への参画」が重要であるという回答の割合が、H30より増加している(図23)。しかし、現代的課題や地域課題に関する主催講座を実施しなかった理由として、「市町村や各担当課で実施している」と回答した割合がH29と比べて減少している(図24)。

2 学校園等と事業連携の現状について

○ 学校園等との連携事業の連携先の割合は、「小学校」が最も多く、高等学校の割合が増加している(図26)。また、学校園と連携した事業・活動を、約7割の公民館が「公民館事業の一つ」と位置付けている(図27)。

3 障害をもった方を対象とした事業について

○ 障害をもった方を対象とした事業を実施している公民館の割合は、7.7%である(図28)。

IV 岡山県公民館連合会研修会への参加状況について

1 岡山県公民館連合会研修会への参加状況 ※図29・図30は、令和4年度の状況を調査

図29 研修会への参加状況 (n=271)

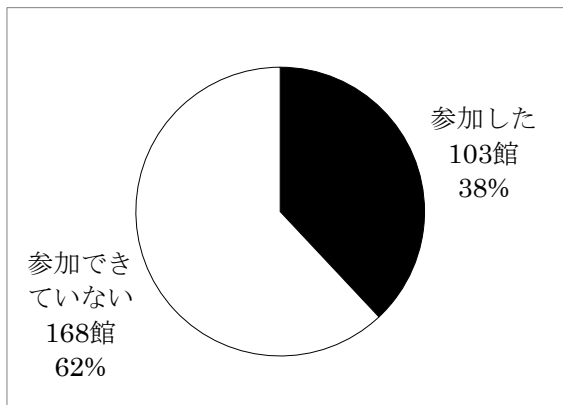
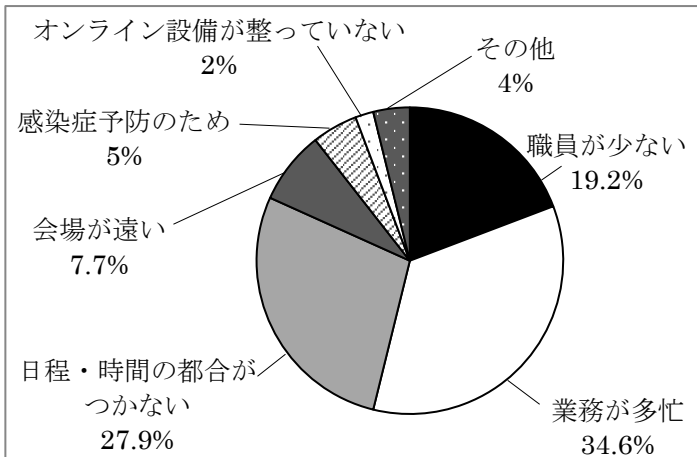


図30 研修会へ参加できていない理由 (n=168)



その他…○社会教育関係主事と違う立場で業務を行っている
○兼務であるため業務外とみなされる 等

<調査結果のポイント>

年間5回のうち1回でも岡山県公民館連合会研修会に参加したと約4割の公民館が回答。

(参考) 令和4年度 岡山県公民館連合会研修会実施状況

	内容	期日	場所
第1回	○講義 「公民館職員の腕まくりで人と地域を結ぼう —社会教育機関としての公民館—」 ○情報交換	R 4. 5. 19	岡山県生涯学習センター
第2回	○講義 「これからの公民館に求められるもの」 ○演習 『「公民館職員のための事業計画ハンドブック」を使った事業づくり』	R 4. 6. 15 R 4. 6. 23	美咲町柵原総合文化センター 岡山県生涯学習センター
第3回	○事例発表 R 3 「第5回公民館職員が選ぶ! 講座アワード」 ○演習 「描こう! 地域の『夢』を育むストーリー ～これから取り組む“人づくり・つながりづくり”～」	R 4. 9. 2	岡山県生涯学習センター
第4回	○意見交換 「研究集会分科会を視聴して 「地域の『夢』を育む公民館活動」について語り合おう」	R 4. 12. 1 R 4. 12. 8 R 4. 12. 15	岡山県生涯学習センター 津山市中央公民館 倉敷市民学習センター
第5回	○「第6回公民館職員が選ぶ! 講座アワード」表彰式 ○岡山県公民館連合会70周年記念講演 「公民館って面白い!?! 公民館の魅力とは!?! ～全国の公民館をめぐって～」	R 5. 1. 24	岡山県生涯学習センター

岡山県公民館連合会では、充実した研修会を実施するため、研修会アンケートでニーズ調査を行い、研修内容を考えている。また、参加しやすいように県南・県北会場で実施したり、回数を工夫したりしている。

V 自由記述

これからの公民館についてのお考え、課題に思われていること等について多くのご意見をいただきました。以下は、主だったものを抽出しています。(全257件回答のうち、82件抽出)

※右側の数字は、以下を表しています。

- ①運営について ②施設・設備について ③職員について ④地域住民・利用者について
⑤その他

	①	②	③	④	⑤
・コロナにより地域住民の参加状況も変わってきた。公民館の在り方そのものを考え直す必要があるのではないか。	○			○	
・各市町村が今後の「公民館のあり方」をどう捉えていくかによって、今以上に大きく二分していくと思われる。一方は地域課題に積極的に関わっていく公民館であり、もう一方は自主講座と地域住民への貸館業務等が中心の公民館である。後者は、現在の職員体制を見直して、館長以下地域課題に関わる職員を配置しなければ変わらない。	○		○		
・少子高齢化が進み地方公民館も年々今までの活動が困難になっている。公民館が社会教育活動の場というより高齢者施設としての居場所づくりに変わりつつある。公民館は地域に対し何を提供できるかを行政として考える必要がある。	○				
・コロナ禍により停滞していた活動がだいぶ緩和されてきた。公民館という生涯学習の場を通して、子どもから高齢者まで幅広い世代が交流し、地域づくりやつながりを促進していくことが必要ではないか。	○				
・公民館に対するニーズは時代とともに変化している。教養を高め生涯学習の契機を提供する講座運営だけでなく、地域課題を把握し、地域住民が主体となって行動し、地域と協働して課題解決に向かっていくために、まずは人材の確保であろう。これからの社会教育としての公民館の果たすべきミッションを視野に入れ、専門的な知識を有する正規職員の継続的採用と育成、そして全ての公民館への配置が必須であるとする。			○		
・これからの公民館には、単に生涯学習の場を提供するだけでなく、地域づくりの拠点としての役割を果たす機能が求められている。地域と連携し、地域課題や、防災や情報化などの現代的課題に取り組む必要がある。	○				
・この地域で生活してよかったなと思えるようなウェルビーイング度（幸福度）をあげる為、社会教育の重要性を認識して地域に伴走することが重要と考える。課題は、学校・園統合再編準備が進んでいる現在だが廃校になろうとも灯を失わない事である。	○				
・利用者や行事等の参加者が高齢者と小学生の二極化傾向にある。ミドル世代は余暇の過ごし方の多様化や仕事等での多忙により公民館行事の参加が難しいこともあるが、公民館に対する価値観そのものが変わりつつあると感じる。幅広い世代やニーズに対応できるよう、時代に即した方法を検討していかなければならない。	○				
・これからの公民館は、福祉を中心とした居場所としての役割が必要。学習機会は民間が充実してきている。若い世代はそちらを利用できる。地域にある公民館だからできる事。用事がなくても立ち寄りたくなる場所を目指すべき。	○				
・公民館は、より社会教育的分野に注力していくべきであり、このままでは他施設カルチャーセンターとの競合になる。	○				
・人口減少時代の現代にあって、公民館には地域住民の学習と活動を支援する機能の強化が求められていると聞いている。こうした社会のニーズの変化に対応していくためには、社会教育主事等が置かれていない公民館には、行政からの的確な指導が必要だと思う。	○		○		
・公民館が地域の拠点であるが、公民館使用の基準等があり、地域づくり活動が円滑に行えないなどある。広範囲な活動をするために公民館のあり方等見直しをして欲しい。	○				
・市内各公民館の会計事務や事務取りまとめ的な役割に多くの時間を費やしている本市のような中央公民館については、中央公民館のあり方と同時に、その必要性自体についても考えていかなければならない。	○				
・中央公民館職員＝教育委員会職員のため、生涯学習事業は、教育委員会の事業として展開している。さらに、ホールを直営で管理しているため、文化芸術活動を行っている。中央公民館は、地域公民館の連絡調整・統括的役割として機能しているので、今後も、地区公民館を地域学習拠点として、支援していく。	○				
・公民館には社会教育に関する専門資格有資格者の配置が必要。			○		
・現在の公民館使用は、地域の各種団体の会合などに使用される場合が多いので、今後は、公民館を使用して行う、自主サークル・グループを増やして、地域住民の豊かな生活に役立てていきたい。また、行事開催について、各種団体に負担となっている事項はなるべく精査してまとめるなど、実施方法を検討していきたい。	○				

	①	②	③	④	⑤
・当館の地域は「公民館＝高齢者が集う場所」のイメージが根強いことから、そのイメージを新たにするためには、「ネクスト利用者」と呼ぶべき、中高生や大学生、児童とその保護者（20代～30代を中心とする）、青年層（10代後半～30代）の館利用を推進する施策が必要と考え、さまざまな施策を講じている。それらの層に対して公民館の魅力を提供するために、個人利用を容易にするサービスやICT環境の構築など、さらに取り組みを進めていかなければならないと考えている。	○				
・課題として、人口減少と高齢化が核心であるが、施設利用者および公民館講座等の参加者が固定化されており、新規利用者（特に若年層）の利用が滞っていることが挙げられる。解決法の一つとして、価値人口を創出する地域に特化した取組と、関係人口を取り入れる新規の取組の両側面からのアプローチが必要と思われるが、これらを達成するためには同時に、そのような企画を提案できる職員や市民の人材確保が急務であるように思われる。	○		○	○	
・芸術文化も生涯学習でも次世代の担い手が不足してきている。その問題を象徴するように公民館の利用する世代も高齢化が加速している。市民が参画しやすい公民館になるため、ニーズを把握し、魅力的で入りやすい社会教育施設を目指していく必要がある。ハード面、ソフト面、サービスの提供などについて改めて見直すべきところを改善していく。	○	○	○	○	
・①スタッフの人材 ②施設・設備 ③予算を行政としてどのくらいバックアップしていただけるかで、公民館運営のあり様は大きく違ってくると思う。	○	○	○		
・予算のあり方、職員配置人数の検討。	○		○		
・職員の働き方改革に目を向けた取り組みが必要。			○		
・真庭市の公民館は、他の機能を持つ施設と複合化し、市民センターの役割を果たしているところがほとんどである。久世公民館は老朽化のため耐震性がないなど課題があり、どのような施設と複合化していくべきかなど検討していく必要がある。			○		
・湯原は、公民館だけでなく市民センター機能や庁舎機能、図書館を兼ね備えた複合施設であるため、公民館単体では捉えづらい部分がある。見直しや整理が必要だと思われる。	○	○			
・八束公民館は職員が常駐して実態として公民館としての機能を有しておらず、コミュニティセンターとしての活用が100%であるため、統廃合等早急な見直しが必要。	○				
・施設の老朽化（特にトイレ・エアコンの設定）			○		
・地域の生涯学習や防災の拠点としての役割を果たすためにも、まずは施設・設備の充実（バリアフリー化、耐震化）が必要。			○		
・玉野市内では昭和50年代に建設された公民館が多く、いずれも老朽化やバリアフリー非対応など建物自体の維持管理に苦慮している。建設時より市内人口が大幅に減少しており、公民館の再編整備を図る等し、維持管理費のスリム化・マンパワー集約による事業の強化を目指す必要性がある。	○	○			
・普段から公民館を利用されている団体だけでなく、若い世代や子育て世代・社会人層など、より幅広い世代の方が利用できるようにしていきたい。	○				
・様々な場所や人、団体との協力関係を築き、人との繋がりをつくれる場の提供をしていきたい。	○				
・普段からコミュニケーションを図ることが重要だと考える。			○		
・地域の人たちに公民館をしっかりと利用してもらうことが重要であると考えている。そのため、講座も高齢者対象のものから中年層、更には若年層を対象としたものを考えていく必要がある。また、コロナを経験して言えることは、高齢者の多くが人との交流ができる場を求めているということ、その場として公民館として、もっと提供していきたい。	○				
・令和2年から令和4年まで、コロナウイルス感染症の関係で、講座や事業が思うようにできなかった。事業等ができなかった反面、地域住民の意見等をより聞くことができ、事業等の見直しを行う良い機会となった。今後は意見等を反映し、より効果的な事業等を展開していきたいと思っている。	○				
・地域との関わりを大切にしていきたい。			○	○	
・住民と共に歩み続ける公民館でありたい。	○			○	
・公民館を利用したことがある人も無い人も、気軽に立ち寄れる、地域に開かれた公民館づくりを目指す。	○				
・公民館利用者のほとんどが、高齢者であり、その中でも男性利用者が少ない。男子や若者の利用者を増やすことが課題。	○				
・地域住民・関係団体による事業の企画・運営への参画と住民のニーズ把握、気軽に活動に参加していただける公民館づくり。	○				

	①	②	③	④	⑤
・地域住民の寄り処（拠点）になれる様、多様な事業の計画立案が必要。地域の方との良い関係を保ちながら、地域の方が何を望んでいるかを把握し、関連団体と連携し、講師や協力者の情報を共有しながら内容をより充実した事業に活かしていける様、努力が必要。	○				
・主催事業がマンネリ化しないように、地域の課題や地域住民のニーズに合った内容を企画し実施していきたい。	○				
・南海トラフ地震などの災害に備え、地域住民の防災意識を高める事業づくり。	○				
・郷土史を探求することで、地域活性化や地域愛を育む事業づくり。	○				
・若年の地域参画の取組として、中高生がイベント当日ボランティア活動に参加するだけでなく、企画の段階から参画し、地域の大人と交流しながら活躍する場を広げることにより、地域の人材育成はもとより地域に愛着をもち、住みよいまちづくりに寄与できればと考えています。	○				
・公民館事業をしたくても、講師がいない。毎年同じ内容の公民館事業となってしまう。	○				
・公民館をはじめとする集いの場では、地域住民同士の交流を促進する場であり、異世代や異文化間の交流を育む活動が重要です。地域の結びつきを強め、共に成長出来る場を提供することが求められますが、高齢者人口の増加や、非対面社会への対応もあり、事業への参加人数減少が課題となっている。	○				
・働き盛りの年代が、貴重な土日に生涯学習として公民館活動に参加したいと思えるような活動にはどのようなものがあるのか、発掘することが課題だと感じている。	○				
・課題として、趣味や娯楽の講座には参加者が多いが、社会教育、ジェンダー論に関するような内容の講座には参加者が少ない。また、地域住民の一部しか公民館を訪れない。	○			○	
・子育て世代、現役世代を対象とした講座の開設。どの様にしたら、イベントに参加して下さった地域の子育て世代や現役世代を、点としてのボランティアにとどまらない、地域活動、社会教育活動の核とする事ができるか。	○				
・コロナの関係でこの4年間、地域の伝統行事が中止となり、また高齢化に伴い伝統文化の継承が難しくなっている。公民館講座で地域文化の継承が出来ないか検討を進めたい。	○				
・地域の特性に合った公民館活動に取り組んでいるが、マンネリ化している面もある。	○				
・令和7年度より地元の学校園が統合され、地元の学校、園がなくなってしまう。これまでの子ども講座の見直しが課題となる。	○				
・近年は地域の間人関係が希薄になっていること、公民館以外の学習機会が多いことから公民館から人足が遠のいているように思う。また、地域のリーダーとなる人材も不足している。まずは気楽に公民館に足を運んでもらえるような事業を企画しなければならないと感じている。	○			○	
・地域の社会教育の中心となるように施設の充実と、現代的課題や地域課題に関する主催事業の充実に取り組んでいきたい。	○	○			
・楽しみながら参加が出来る様な事業を考えたい。	○				
・笠岡市のように少子高齢化・人口減少が著しい自治体においては、子どもから高齢者まで多世代が関わることを企画実施し、郷土愛を育み、子ども達が将来も笠岡市に住み続けたいと思うような新規事業を展開していく必要があると思われます。	○				
・地域の課題についてその解決策について公民館活動を通じて広く地域の皆さんに周知することはもちろん、地域に一校しかない、小学校、中学校の児童・生徒の目線でとらえた課題についてその解決に真摯に取り組む（子供は地域の宝物・子供は未来の社会人）	○			○	
・人口減、高齢化が極端に進んでおり、いかに若者や子供たちが定着し魅力のある町をつくる事が出来るかが一番の課題であると考えている。そのためには、公民館としてどのようなことをしたら魅力・活気のある町づくりを進めることが出来るのか、色々検討し行動する必要がある。また、公民館を多くの人々が利用し、地域の憩いの場所にしていくことも大切であると思う。	○				
・少子化、人口減少、地域住民同士の関係性の希薄化など、社会全体が多くの地域課題や現代的な課題に直面する中、それらを解決するための学習や行動及び拠点として、公民館は人と人をつなげる存在・場所であることが求められていく。現代的課題を含んだ講座の実施、今後の地域社会を担う人材やグループの育成等の事業の必要性は高まっている。特に将来の地域社会を担う人材である若者や子どもへ学習の場を提供し、その中で人と人のつながりが生まれることで、現在問題となっている課題や問題の解決につながるのではないかと考える。事業を行ううえでも、単発的な学習や事業ではなく、持続可能な事業を目指し、実施していく必要がある。	○				

	①	②	③	④	⑤
・地域社会で拠点となること、地域課題を解決していくことが昨今の公民館に求められている。また、高齢者の利用施設ではなく世代間交流が図られることも求められている。一方、若者は仕事やレクリエーションなどで多忙であり、公民館事業への参加のハードルは高いと思われる。そのような環境であると認識しつつ、少しでも理想に近づくように運営していきたい。	○			○	
・地域の実態に応じた学習や活動を考えていきたい。	○				
・里庄町が住み良い町になるように、地域課題を解決して町民の皆様がいきいきと活動できるように、事業を計画してゆくとともに、公民館の場で活動している団体が、学び身に付いたスキルで自立して地域課題の解決に協力していただけるように育て、つなぐ役割も大切にしたいと考えている。	○				
・地域学校協働活動推進の分野に、公民館としての参画・開拓の余地があるのではないか。	○				
・公民館の大きな役割（学習支援、地域づくり支援）を意識して、取組を進めていくことが大切である。本公民館では、学校と公民館との連携事業を進めており、学生（児童）と地域をつなぐ架け橋としての役割を、実践を通して進めていきたい。	○				
・社会教育活動の観点から、学校教育と地域社会との結びつきを強め、その調整機能を果たす。学校と地域が一体となって児童生徒の保護と育成に取り組み、地域社会での活躍の場を作っていく。また、学校と地域社会を結ぶハブとしての機能を果たす。	○				
・地域住民や企業と協力し、ニーズに応えられる企画が必要になる。	○				
・少子高齢化、人口減少により講座の開催やボランティアの育成等、様々な事業の展開が年々困難になってきていることから、町づくり等の関連団体と連携強化した公民館活動を行いたいと考えている。	○				
・高齢化社会にむけ、いかに地域を活性化していくか、若者を中心とした協働社会実現のため、小中学校、社会教育団体、自治会、民間機関との連携をいかにするかなど課題が山積している。	○				
・公民館に関わる情報について周知が不足しているので、幅広い年齢層に向けた情報発信ツールの活用。	○				○
・ICT、流行等、変化が激しく、学術の進歩も著しく早くなっており、それらの変化に対応し、ニーズに応じていくのが大変である。また、それに付随し、国、市の方針を把握し、公民館の事業運営を行っていくための職員の学びの継続が必要である。			○		
・社会の情報化が急速に進んでいる。古いやり方やものの見方にとらわれず、時代に合った視点を持って柔軟にやり方を変えていく必要がある。	○				
・公民館は、社会教育施設として生涯学習に携わるとともに、指定避難所として防災関係機関とも連携を図る必要がある。	○				○
・災害時にWi-Fiが使えるとよい。災害避難場所になった場合、事務所にTVがあるため基本的に避難者は見られない。またラジオの電波も入りやすく、ネット環境もあまりよいとはいえない等不便な面がある。Wi-Fiがあれば情報収集がしやすくなり、避難者のストレスも軽減されると思う。そのために普段からWi-Fi接続が可能である状況が好ましいけれど、そうすると普段はただのWi-Fiにつながりたいだけの人が来館したり、容量の問題もあるのでこの問題はなかなか難しい。		○			○
・南海トラフを見据えた防災教育の拠点。	○				
・人権教育の広報・啓発活動。	○				
・学生の放課後利用などで気軽に利用できるような方策を考えたい。	○				
・子どもの居場所づくりができないかと考えている。そのための事業を充実させていきたいし、また、そうした活動がしやすい施設づくりも要望していきたい。	○	○			
・学校に行きにくい児童・生徒を受け入れる場所のひとつとして活動できないだろうか。	○				
・公民館職員は社会や地域の現代的な学習課題を捉え、公民館にふさわしい講座を立案する企画力を備えるため、研修等が必要。			○		
・公民館の利用者を増やしたい思いは強いが、少子化・高齢化・過疎化が進むスピードが速く公民館に来れる地域住民が少なくなる中での事業計画は年々難しくなる。そんな中でも工夫しながら利用者を増やしたいと切に思います。その為にも他館での取り組み事案は大変参考になります。できるだけ情報を発信して頂きたいと思います。また、交流会・意見交換会などあれば良いと思います。	○				○
・社会の変化に疎くなりがちなので、そういった研修が必要と考える。					○
・公民館の研修会等、対面で研修等を行いたいのが、職員数が少なく、出られないことが多いので、オンラインで参加可能なものを増やしていただくと助かる。			○		○
・新型コロナウイルス感染症が5類に移行しましたが、その後に地域内での感染情報が数件入っており、予断を許されない状況でどの様に活動するかが課題。	○				

VI まとめと今後の方向性

令和5年度「公民館実態調査」のデータを見ると、県内の公民館の複合施設の割合は増加し(図3)、直営で管理・運営を行っている割合は減少している(図2)。公民館数が減少し、複合施設の割合が増加したことで、1館あたりの公民館がカバーする地域が広くなったと読み取ることができ、学習要求(学習ニーズ)把握を行わなかった理由としてあげられている「地域の特性がつかみにくい」の回答増加(図15)にも関連があると考えられる。このことは、地域住民のニーズ把握の不足にもつながり、それが現代的課題や地域課題に関する主催講座を実施しなかった理由である「受講者の需要がない」との回答増加(図24)にも影響を与えている要因の1つであると考えられる。

公民館の主催講座では、取り上げた現代的課題や地域課題として、「高齢化社会」「情報・ICT活用」「防災教育」が増加しており、コロナ禍を経て、需要が高まっていることがわかる。第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理では、「デジタル技術を活用した学習の重要性」が述べられており、「情報・ICT活用」の主催講座の著しい増加は(図20)、社会生活においてPCやスマホなどICT機器の活用が浸透する中で、公民館職員が地域の実態を踏まえ、事業・講座で実施していると言える。その反面、公民館運営審議会または代替機関の設置状況を見ると「設置している」が減少しており(図9)、その開催回数も減っている(図10)。さらに、「社会教育主事発令者」「社会教育主事有資格者」の数は、全体の約15%にとどまっており、前回調査より約5%減少している(図7)。自由記述でも、「公民館には社会教育に関する専門資格者の配置が必要」「現代的課題(地域課題)を踏まえた、事業・講座を提案できる職員の人材確保が急務である」等の声が上がっている。このことから、岡山県の社会教育行政のすべきこととして、人材育成が考えられる。また、自己点検及び評価について「方法がわからない」という回答が増加しており(図18)、公民館の運営についても岡山県公民館連合会の研修等で取り上げていく必要がある。

自由記述より「公民館職員の役割」「主催講座事業の在り方」に関する記述が最も多い。このことから、現代的課題や地域課題を解決するためにどのような事業・講座を実施するか、課題意識を持って取り組んでいることがわかる。特に、「多世代交流の場」「人と人をつなげる存在」「住民の地域参画」という記述が多く見られ、公民館は地域コミュニティの基盤であるという認識を持ち、地域住民の主体的な参画を促すために、地域の現状把握に努め、多世代を巻き込むことのできる事業・講座の実施方法、気軽に集える“公民館”という場づくりをどのようにしていくかについて考えている様子がうかがえる。さらに、地域住民にとって魅力的な公民館とするため、目標を掲げ、事業・講座を継続することで、学びを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環を生み、ウェルビーイングの実現を図っていきたいと考えている。集う場所としての

公民館、事業・講座の持続については職員だけの力では限界があるため、多様な団体・協力者との連携の必要性を感じている記述も多く見られる。さらに、団体・協力者の発掘や連携のために、地域の現状を把握し、むすびつけることのできる社会教育主事等の専門有資格者の配置及び適正な職員配置も必要だと考えている。

公民館の在り方についてもそうだが、勤務する職員の業務効率化の必要性、施設・設備のさらなる充実についても喫緊の課題として上がっている。ソフト、ハードの両面からの見直しが必要とされていることは言うまでもない。

今回の調査結果を受け、各市町村は実態把握に努め、社会情勢にも目を向けながら、体制の見直し、評価や点検を踏まえての公民館の在り方を見直す機会をつくっていくべきだろう。もちろん、そうした市町村の取り組みを支援していく上で、岡山県公民館連合会が主導的な役割を果たすことも大切であると考えている。

岡山県公民館連合会事務局

調 査 用 紙

公民館実態調査票

市町村名：() 公民館名：()

記入者 職名：() 氏名：()

◎ 回答は、該当する番号を○で囲んで下さい。質問は、8月1日時点の状況でお答え下さい。

問1 (1) 貴公民館の職員の役割は、次のどれに一番近いですか。(1つに○)

- 1 社会教育の専門職として地域社会づくりを支援する役割、地域課題を解決するための役割
- 2 地域住民の生涯学習を支援する役割
- 3 地域住民の生活全般の相談相手・話し相手としての役割
- 4 施設・設備の管理者としての役割

(2) 貴公民館の職員について伺います。

- ア. 貴公民館の職員数を記入下さい。……………(常勤：)人
(非常勤：)人
(兼務：)人
- イ. 貴公民館職員のうち、社会教育主事発令者の人数を記入下さい。……………()人
- ウ. 貴公民館職員のうち、社会教育主事の資格を有している人数を記入下さい。…()人

問2 (1) 貴公民館には昨年度(令和4年度)、社会教育法第29条(以下、参照)にもとづく公民館運営審議会(以下「公運審」という)又はその代替機関を設置していませんか。(1つに○)

1 設置している → 問2(2)へ 2 設置していない → 問2(3)へ

(2) (1)で「1」を回答した公民館に伺います。貴公民館では昨年度(令和4年度)、公運審又はその代替機関の会議を、何回開催しましたか。また、会議内容は次のどの内容が中心でしたか。
(複数回答可)

- 開催回数 () 回
- 2 公民館の年間計画について
- 3 公民館の施設管理について
- 4 公民館事業の企画について
- 5 その他 ()

社会教育法第29条
公民館に公民館運営審議会を置くことができる。
2 公民館運営審議会は、館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議するものとする。

(3) (1)で「2」を回答した公民館に伺います。貴公民館で公運審又はその代替機関を設置していないのは、なぜですか。(差し支えなければ、理由をお書きください)

問3 貴公民館の事業運営における地域住民の参加・参画状況として、最も近いものはどれですか。

(1つに○)

- 1 事業運営への参加・協力
- 2 企画段階からの事業立案や運営等への参画
- 3 参画を得ていない
- 4 その他 ()

問4 (1) 貴公民館は昨年度(令和4年度)、現代的課題や地域課題に関する主催事業を行いましたか。

(1つに○)

1 行った → 問4(2)(3)へ 2 行っていない → 問4(4)へ

(2) (1)で「1」を回答した公民館に伺います。貴公民館が主催事業として実施した現代的課題・地域課題はどのような『テーマ』でしたか。実施したテーマの「実施の有無」欄に○をおつけ下さい。

(複数回答可)

また、そのテーマで事業を行った際、どのような連携先<施設や団体・機関>と連携しましたか。該当する番号①~⑯を塗りつぶして下さい(複数回答可)。単独の場合は塗りつぶさないで下さい。

『テーマ』	実施の有無		連携先<施設や団体・機関>																	
	有	無	① 青少年局及びその出先機関	② 市町村内の他公民館	③ 市町村外の公民館	④ 美術館	⑤ 博物館・郷土館	⑥ 図書館	⑦ 児童館	⑧ 青少年教育施設	⑨ 社会教育関係団体	⑩ NPO法人	⑪ 民間教育事業者・企業	⑫ 大学等高等教育機関	⑬ その他 ()	⑬	⑭	⑮	⑯	
1 健康・体力づくり	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
2 人権教育	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
3 地域文化の継承	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
4 子育て・家庭教育	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
5 青少年の健全育成	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
6 高齢化社会	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
7 食育	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
8 まちづくり	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
9 防災教育	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
10 情報・ICT活用	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
11 介護・福祉	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
12 男女共同参画	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
13 安全・安心	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
14 環境教育	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
15 ボランティア	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
16 読書推進	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
17 国際理解	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
18 資源・エネルギー	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
19 消費者教育	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			
その他	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯			

(3) (1) で「1」を回答した公民館に伺います。主催事業の実施を通して、地域住民に変化がありましたか。次のア～エの各項目について、該当する1～4のうち1つに○をおつけ下さい。

ア. 様々な現代的課題に対する興味・関心が高まった。

1 高まった 2 やや高まった 3 あまり高まっていない 4 高まっていない

イ. 学習に対する意欲やニーズを掘り起こすことができた。

1 掘り起こせた 2 やや掘り起こせた 3 あまり掘り起こせなかった 4 掘り起こせなかった

ウ. 課題を考え、解決しようとする団体・グループができた。

1 できた 2 少しできた 3 あまりできていない 4 できていない

エ. 地域にある団体・グループの活動が活性化された。

1 活性化された 2 やや活性化された 3 あまり活性化されていない 4 活性化されていない

(4) (1) で「2」を回答した公民館に伺います。現代的課題や地域課題に関する主催事業を実施しなかった理由は何ですか。(複数回答可)

1 指導者や講師の確保が難しい 2 展開の手段・手法が難しい
 3 受講者の需要がない 4 実施する必要性を感じない
 5 予算の確保が難しい 6 市町村や各担当課で実施している
 7 職員が少ない
 8 その他 ()

問5 現代的課題や地域課題に関する主催事業の内容を充実させるための重要なことは何だとお考えですか。(複数回答可)

1 地域課題を企画へ反映 2 住民の事業への参画
 3 学習ニーズを企画へ反映 4 職員のスキルアップ
 5 指導者やスタッフの育成 6 参加体験型学習の手法
 7 ボランティアの受入れ 8 施設・設備の充実
 9 その他 ()

問6 貴公民館では、昨年度(令和4年度)の事業の自己点検及び評価を行いましたか。(1つに○)

1 行った → 問6 (2)へ 2 行っていない → 問6 (3)へ

(2) (1) で「1」を回答した公民館に伺います。貴公民館の事業の自己点検及び評価(学級・講座等の参加者アンケート、公民館利用者アンケートは除く)は、誰が行いましたか。(複数回答可)

1 担当職員 2 担当職員以外の公民館職員
 3 学級・講座参加者等の公民館利用者 4 公運審及び代替機関等
 5 公民館事業等の評価を行うために組織された委員会等
 6 その他 ()

(3) (1) で「2」を回答した公民館に伺います。貴公民館で事業の自己点検及び評価を行わなかったのはなぜですか。(1つに○)

1 方法がわからない 2 業務が繁忙である
 3 その他 ()

問7 (1) 貴公民館で過去5年間(平成30年度～令和4年度)に、地域住民の学習要求(学習ニーズ)の把握を行ったことがありますか。(1つに○)

1 行った → 問7 (2)へ 2 行っていない → 問7 (3)へ

(2) (1) で「1」を回答した公民館に伺います。貴公民館ではどのような方法で地域住民の学習要求(学習ニーズ)の把握を行いましたか。(複数回答可)

1 学習・講座参加者から 2 公運審及び代替機関の委員から
 3 担当者の過去の経験から 4 直接的な聞き取り調査から
 5 自治会や団体等から 6 アンケート調査から
 7 その他 ()

(3) (1) で「2」を回答した公民館に伺います。地域住民の学習要求(学習ニーズ)の把握を行っていない理由は何ですか。(複数回答可)

1 地域の特性がつかみにくい 2 市町村の課題把握で充分
 3 業務が繁忙である 4 職員が少ない
 5 その他 ()

問8 (1) 貴公民館で**昨年度(令和4年度)**、**学校園等と連携した事業・活動を実施しましたか。** (1つに○)

1 実施した → **問8** (2) (3) ◯ 2 実施していない

(2) (1) で「1」を回答した公民館に伺います。連携の相手はどこですか。 (複数回答可)

1 幼稚園・保育園・こども園等 2 小学校 3 中学校
4 高等学校 5 特別支援学校
6 その他 ()

(3) (1) で「1」を回答した公民館に伺います。その事業・活動はどのような位置づけで実施されましたか。 (複数回答可)

1 学校支援ボランティアとして 2 総合的な学習の時間・探究の時間として
3 教科の授業として 4 クラブ・部活動の時間として
5 公民館事業の1つとして
6 その他 ()

問9 貴公民館では、**昨年度(令和4年度)**に障害 (障害種を問わない) をもった方を主な対象とした事業・活動を実施しましたか。 (1つに○)

1 実施した 2 実施していない

問10 (1) 貴公民館では、**昨年度(令和4年度)**岡山県公民館連合会の研修会に積極的に参加してくださいましたか。 (1つに○)

1 参加した 2 参加できていない → **問10** (2) ◯

(2) (1) で「2」を回答した公民館に伺います。研修会に参加できていないのは、なぜですか。
(差し支えなければ、理由をお書きください)

問11 最後に、これからの公民館のあり方についてのお考え、課題に思われていること等、ご自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

岡山県公民館連合会事務局

【様式1】

公民館実態調査票 (追加調査)

◎ **回答は、【様式2】のExcelファイルの該当する部分に直接○を入力して下さい。**
市町村ごとにシートを作成していますので、該当部分に入力をお願いいたします。
質問は、8月1日時点の状況でお答え下さい。

問1 (1) 各公民館の管理運営状況について、○をおつけください。 (1つに○)

1 直営
2 直営＋管理委託
3 管理委託

問2 (1) 各公民館の施設概況について、○をおつけください。 (1つに○)

1 単独施設 2 複合施設 → **問2** (2) ◯

(2) (1) で「2」を回答した公民館について伺います。該当する公民館に併設されている施設・機関に該当するものすべての番号に○をおつけください。 (複数回答可)

1 庁舎、支所 2 地域活動施設 (コミュニティセンター、集会所等)
3 NPOセンター、市民活動支援センター 5 博物館 (郷土資料館等)
4 図書館 7 幼稚園、保育所、小学校、中学校
6 文化ホール、公会堂 8 福祉施設 (老人福祉センター、自立支援センター等)
9 体育施設 (体育館、グラウンド等) 10 民間商業施設
11 農林漁業関連施設 (農業改善センター等)
12 その他 ()

ご協力ありがとうございました。

岡山県公民館連合会事務局

公民館実態調査・実施公民館(本館)一覧 ※令和5年9月28日現在

地区	市町村	番号	施設名	地区	市町村	番号	施設名	
備前地区 (93)	岡山市 北区	1	岡輝公民館	備前地区	瀬戸内市	3	長船町公民館	
		2	足守公民館			赤磐市	1	赤磐市立中央公民館
		3	京山公民館				2	赤坂公民館
		4	一宮公民館				3	熊山公民館
		5	大元公民館				4	吉井公民館
		6	津高公民館				5	高月公民館
		7	岡西公民館				6	西山公民館
		8	建部町公民館				7	山陽公民館
		9	御南西公民館		8		笹岡公民館	
		中区	10		北公民館	和気町	1	和気町中央公民館
			11		高松公民館		2	本荘地区公民館
			12		吉備公民館		3	和気地区公民館
			13		旭公民館		4	石生地区公民館
			14		御津公民館		5	和気地区公民館別館
	15		操山公民館		6		石生地区公民館別館	
	東区		16		高島公民館	吉備中央町	1	上竹荘公民館
			17		東公民館		2	納地公民館
			18		東山公民館		3	豊野公民館
			19		富山公民館		4	下竹荘公民館
		20	操南公民館		5		吉川公民館	
		21	山南公民館		6		大和公民館	
		22	上南公民館		7		津賀公民館	
	南区	23	旭東公民館		8		円城公民館	
		24	瀬戸公民館		9		御北公民館	
		25	万富公民館		10		吉備高原公民館	
		26	上道公民館		倉敷市 倉敷地区	1	倉敷公民館	
		27	西大寺公民館			2	倉敷東公民館	
		28	灘崎公民館			3	倉敷西公民館	
		29	福田公民館			4	倉敷南公民館	
		30	南公民館			5	倉敷北公民館	
		31	興除公民館			6	多津美公民館	
		32	芳田公民館			7	新田公民館	
	33	福浜公民館	8			庄公民館		
	34	藤田公民館	9			茶屋町公民館		
	35	妹尾公民館	10			西阿知公民館		
	玉野市	36	光南台公民館		水島地区	11	水島公民館	
		37	岡南公民館			12	福田公民館	
		1	玉野市立中央公民館			13	福田南公民館	
		2	築港公民館			14	連島公民館	
		3	田井公民館			15	連島南公民館	
		備前市	4		玉公民館	児島地区	16	児島公民館
			5		和田公民館		17	下津井公民館
			6		日比公民館		18	本荘公民館
			7		山田公民館		19	琴浦公民館
			8		荘内公民館		20	唐琴公民館
			9		八浜公民館		21	郷内公民館
			瀬戸内市		10	大崎公民館	玉島地区	22
11				東児公民館	23	玉島東公民館		
12	銚立公民館			24	玉島西公民館			
13	玉原公民館			25	玉島北公民館			
1	備前市立中央公民館			26	玉島黒崎公民館			
2	日生地域公民館			27	船穂公民館			
3	吉永地域公民館			28	真備公民館			
4	西鶴山公民館	笠岡市		1	笠岡市中央公民館			
5	香登公民館			2	笠岡東公民館			
6	伊部公民館			3	笠岡公民館			
7	片上公民館			4	今井公民館			
8	伊里公民館			5	金浦公民館			
9	東鶴山公民館			6	城見公民館			
10	三石公民館			7	陶山公民館			
11	日生西公民館			8	大井公民館			
12	日生東公民館			9	吉田公民館			
13	日生南公民館		10	新山公民館				
14	神根公民館		11	北川公民館				
15	三国公民館		12	大島公民館				
16	和意谷公民館		13	神島公民館				
1	瀬戸内市中央公民館		14	神島外公民館				
2	牛窓町公民館		15	高島公民館				

地区	市町村	番号	施設名	地区	市町村	番号	施設名		
備中地区	笠岡市	16	飛島公民館	備中地区	矢掛町	3	美川公民館		
		17	白石公民館			4	三谷公民館		
		18	北木公民館			5	山田公民館		
		19	北木西公民館			6	川面公民館		
		20	真鍋島公民館			7	中川公民館		
	21	六島公民館	8			小田公民館			
	井原市	1	井原市中央公民館			美作地区 (61)	津山市	1	津山市中央公民館
		2	井原公民館					2	院庄公民館
		3	出部公民館	3	田邑公民館				
		4	荏原公民館	4	一宮公民館				
		5	青野公民館	5	高田公民館				
		6	県主公民館	6	高倉公民館				
		7	西江原公民館	7	高野公民館				
		8	木之子公民館	8	河辺公民館				
		9	高屋公民館	9	大崎公民館				
		10	野上公民館	10	広野公民館				
		11	稲倉公民館	11	清泉公民館				
		12	大江公民館	12	東苔田公民館				
		13	芳井公民館	13	二宮公民館				
		14	美星公民館	14	佐良山公民館				
	総社市	1	総社市中央公民館	15	福南公民館				
		2	東公民館	16	成名公民館				
		3	西公民館	17	西苔田公民館				
		4	昭和公民館	18	城西公民館				
		5	山手公民館	19	津山東公民館				
		6	清音公民館	20	加茂町公民館				
	高梁市	1	高梁中央公民館	21	阿波公民館				
		2	高梁公民館	22	勝北公民館				
		3	津川公民館	23	久米公民館				
		4	川面公民館	真庭市	1	北房公民館			
		5	巨瀬公民館		2	落合公民館			
		6	中井公民館		3	久世公民館			
		7	玉川公民館		4	勝山公民館			
		8	宇治公民館		5	勝山月田公民館			
		9	松原公民館		6	勝山富原公民館			
		10	高倉公民館		7	湯原公民館			
		11	落合公民館		8	美甘公民館			
		12	有漢公民館		9	八束公民館			
		13	成羽公民館	美作市	1	美作市中央公民館			
		14	川上公民館		2	大原公民館			
		15	備中公民館		3	林野公民館			
	新見市	1	正田公民館		4	勝田公民館			
		2	唐松公民館		5	作東公民館			
		3	井倉公民館		6	豊野公民館			
		4	草間公民館		7	土居公民館			
		5	豊永公民館		8	英田公民館			
		6	熊谷公民館	新庄村 鏡野町	1	新庄村公民館			
		7	菅生公民館		1	鏡野町立中央公民館			
		8	上市公民館		2	芳野公民館			
		9	千屋公民館		3	大野公民館			
		10	石蟹公民館		4	小田公民館			
		11	新見公民館		5	中谷公民館			
		12	福本公民館		6	香南公民館			
		13	西方公民館		7	香北公民館			
		14	高尾公民館		8	郷公民館			
		15	大佐公民館		9	泉公民館			
		16	神郷公民館		10	羽出公民館			
		17	哲多公民館		11	奥津公民館			
		18	哲西公民館		12	上斎原公民館			
	浅口市	1	浅口市中央公民館	13	富公民館				
		2	金光公民館	勝央町	1	勝央町公民館			
		3	鴨方公民館		奈義町	1	奈義町公民館		
		4	寄島公民館	西粟倉村		1	あわくら会館		
		5	寄島東公民館		久米南町	1	久米南町コミュニティセンター		
	早島町	1	早島町中央公民館	美咲町		1	美咲町公民館本館		
		1	里庄町中央公民館		2	旭支館			
	矢掛町	1	矢掛町中央公民館		3	柵原支館			
		2	矢掛公民館						

令和5年度「公民館実態調査」

発行年月 令和6年3月

編集・発行 岡山県公民館連合会事務局

(岡山県生涯学習センター振興課内)

〒700-0016 岡山市北区伊島町 3-1-1

TEL : (086) 251-9751 FAX : (086) 251-9757

E-mail : syogaise05@pref.okayama.jp

URL : <https://www.pal.pref.okayama.jp/kenkouren/>